

令和4年度第3回白井市総合計画審議会

議事概要

日時：令和4年7月28日（木）午後1時から5時10分

場所：白井市役所東庁舎3階 会議室302・303・304

出席者：【委員】

・第1部

関谷 昇会長、野水 俊夫副会長、手塚 崇子委員、飛田 毅委員、
秋本 茂雄委員、近藤 恭子委員、福田 純子委員

・第2部

関谷 昇会長、野水 俊夫副会長、鎌田 元弘委員、中野 七生委員、
宇賀 弘通委員、宇賀 博委員、酒井 啓史委員、若旅 千秋委員

【事務局】

池内企画政策課長、武藤係長、多納主任主事、高橋主任主事

・第1部

松丸総務部長、岡田市民環境経済部長、豊田福祉部長、佐藤健康子ども部長、
本間教育部長学校政策課長事務取扱、山本危機管理課長、
内藤市民活動支援課長、竹内高齢者福祉課長、相馬子育て支援課長、
片桐保育課長、松岡健康課長、大友教育支援課主幹、寺田生涯学習課長

・第2部

松丸総務部長、岡田市民環境経済部長、高石都市建設部長、
齊藤秘書課長、鈴木公共施設マネジメント課長、金井産業振興課長、
小島都市計画課長、藤川建築宅地課長、鈴木道路課長、板倉上下水道課長

傍聴者 3名

1. 開会

2. 議題

■第1部■

(1) 評価の実施について

○戦略1－3 子育てしたくなるまちづくり

【会長】

勉強会（質疑応答）について、事務局から進め方の説明をお願いします。

【事務局】

資料に沿って説明

【会長】

お手元に配付資料があるかと思います。事前に各委員から評価等を加えていただいて、それを取りまとめたものがあります。これを踏まえながら、まず委員一人一人に、それぞれの施策についての全体の評価ということで少しコメントを頂いて、そこから必要があれば、少しやり取り等をさせていただければと思います。いかがでしょうか。

【委員】

全体的に、私が一番感じるのは、子育て世代包括支援センターの周知についてが、いま一つかなという点です。切れ目ないというところが大事なところなので、これを利用される方が、どういうところなのかとか、あとは、どういう内容をしているのかというのが、まだ周知されていないのではないかとこのところが課題ではないかと思っております。そこが大きく私としては思ったところであります。

あとは、今回例えば2次評価のところ、子ども一人一人への保育、教育の質の向上ということで、前も委員をさせていただいたときは、とにかく量だということで、質は入れないのかといっても、質は入れていただけなかったことがあったので、今回ここで質を入れていただいたのは、とてもよかったなと思っています。

量と質は、子ども・子育て支援法でも両方書いてあることなので、両方が今はないと、ただ保育を提供しているだけでは、内容の充実であるとかが重要であると思いましたが、これを入れていただけたことはよかったなというふうに、とても思っているところであります。

あとは、ICTの整備等は少しずつ、今回コロナの関係もあって進められているということだったので、このICTを利用して、職員の方や先生方が本来向き合うべき仕事に向き合うことができれば、質も向上できるかと思っておりますので、こちらを進めていただければありがたいなと思っています。

さらに、今回またコロナの関係で、まだ少し長期化するおそれがあると思っておりますので、コロナだからこそ、人とのネットワークというのは非常に重要かと思っておりますので、先ほど言った子育て世代包括支援センターであったり、ほかのサービスであったり、あとは例えば取組2にあるような経済的負担の軽減というものをどういうふうにされているのかということ、逆に情報を得られる人は得られるけれども、得られない人とか分からない人というのが、多分いろいろな課題を抱えていたり、それこそ多問題といって、一つの問題だけじゃなくて、経済だけじゃなくて精神疾患をお持ちだったりとか、いろいろなことを含まれていると思うので、そういう方たちがどこに行ったら相談できるのかとか、行ったことによって、何か自分たちが支援されることがあるのかということを知っていただければという工夫をしていただけたらと思います。

【会長】

そのまま続けて、お隣に順次御発言をいただければと思います。

【委員】

部分的には、まあまあじゃないかなという部分と、それから、これ全然知らなかったのというのが過半数を超えているぐらいあるので、もうちょっと私の勉強が必要かなと思っていますので、はっきりした評価は出せないかなと思っています。

【委員】

私は、あえて評価は出さなかったのですけれども。なぜかという、評価はあんまり気にしないで、本当にやる気がある人で、きちっと相談しながらやってほしいというところがあるのです。

きちっとした情報を交換しながらやらずに、ただ市民の声という形で捉えちゃうと、とんでもないことになっちゃうと思うのです。今はただの情報というのは、あんまり価値がないのです。価値があるのは検証データというか、検証評価が本当に価値があることで。

だから、やはり評価は気にしないで、本当にやる気がある人と、きちっと相談しながらやってほしいというところがあるのです。そのコミュニケーションが、いろいろやっていると、うまくいっていないところがあると思います。

特に、福祉と関わったりして、予算に課題があると感じています。役所では、予算が厳しいと思うのですけれども、例えば農業とかに取り組む福祉事業者は、機械とかを買わないとどうしようもないけれども、頼りにしたのが企業の補助金なのです。それでも優先順位がありますから、どうやったら優先順位が上がるのだとか、そういう研究をしないと駄目なのですけれども。ちょっとコツが分かれば、私が支援したところは、250万のトラクターを買ったり、ちゃんといろいろな機械をそろえることができたりしたのです。そして、どういう結果が生まれたかといったら、草刈り機できたから、白井市の公園の草刈りの仕事を入札で取ることができて、そして、その余った残渣とかを私のところに持ってくれば、堆肥として処理できたのです。

だから、コミュニケーションを取りながらうまくやれば、かなりいい結果が出てくるところがあります。行政の範囲外の仕事なのですけれども、そこら辺を総合的に取り組めば、とにかくこれから情報といろいろな人を結びつけるのが大事なことだと思います。

【委員】

私は、「子育てしたくなるまちづくり」への課題はしっかり捉えられている点と、それから、放課後子ども教室の新設を図られたりとか、そういったことについて、とても評価できる内容だなとは思っているのです。

ただ、それ以外の事業をもっと進めていく、施策を進めていく中で、具体的な改善策が明確になっていないようなところについては、それで今よいと思われるかどうかというところでは難しいかなと思う点もありますし。あとは、子育て世代包括支援センターのどうしても市民の認知度がまだまだないということについて、認知がされていない分、機能がとても充実していても、なかなか活用されていないというところに結びついていけ

なくて、その施策自体が、ホームページで改善できるのかというところなども、割ともう少しやりようがあるのかなと思ったりして。そういったところが非常に、もう少しできることがあるのかなと思ひまして、そのような形で評価させていただきました。

【会長】

続いてよろしく申し上げます。

【委員】

私は、総合評価をBにさせていただいたのですけれども、取組のこの1から4までを見ますと、派手ではないのですけれども、一応、子育て世代には必要な支援を押さえていらっしゃると思いますし、全部の取組において、少しずつ進捗しているなというのが感じられました。

といいますのも、ここには書いてありませんが、送迎ステーションの開設とか、預かり保育の拡充とか、あとは、新しい放課後子ども教室の設置など、新しい取組もありまして、それらがありますので、子育てとか教育現場での支援が強化しているなというふうにかがえたのと同時に、この先、少子化になっていきますので、それを見込んで柔軟さがある。箱物ではなくて、例えば幼稚園に預かり保育をつけたりとか、あとは送迎ステーションも、いずれは、もしかすると要らなくなるかもしれないけれども、そこに今必要なもので置いておくというような形で、そういう柔軟さは高く評価したいと思いました。

ただ、どういった取組にどういった連携が図られているのかというのが分かりづらくて、そうすると、いろいろな取組が行われているのですが、一部の人にしか、それが共有されていない部分もあるのかなと思って、そこをもうちょっと周知していけたらいいのかなと思いました。

あと、指標の中で、待機児童数も減っていますし、学校満足度の数値が上がっていますので、成果も上がってきているような気がしました。

全体的には、市民がこうしてほしいというようなことを押さえて、進捗していた取組があつて、それは非常に評価できるなと思いました。

今回、評価シートの中で、先ほどから皆さんがおっしゃっているように、何回も子育て世代包括支援センターの周知といった言葉が出てきているのですが、確かにこれは箱物じゃないので、以前との変化が分からなくて、私もよく分からないなというのが実感です。

質問の回答でも、私が質問をした中の回答に、子育て支援コーディネーターの下、各サービスの連携が強化され、必要なサービスが漏れることなく提供されるようになど書いてあったのですが、実際に中の現場で働いている職員さんたちが、もしそういうふうを感じていらっしゃるのであれば、それは子育て世代包括支援センターを開設した意味というのが一番実感できて分かっていらっしゃる方たちじゃないかと思うので、そういう方たちの言葉を借りてというか、そういうことで何か周知をしていってもいいのじゃないかと思ひます。

というのは、1人の保健師さんが、何か働きやすくなったのだよねと。支援がスムーズにいくようになって、今まではかぶっていたところがあったのだけれども、それがすっといけるようになったのだと、言ってくださった方がいて。そういうのを市民の方に言わなくても、そういうような実感をしているのだなというのを感じることができたので、うまくそれを周知の方向に持っていったらいいのではないかと思います。

なので、以前とは何がどう変わったか、どのようなことを子育て世代に行っているかというようなことをいろいろな方法を使って、ぜひしっかりと市民の方に情報提供をしてほしいと思いました。

【会長】

いろいろ今、御意見を頂戴いたしましたけれども、私、Aグループのときにグループワークに参加できなかったもので、文脈をつかめていないところもあるかもしれませんが、委員の皆さんの御発言を伺っていると、センターをはじめとした様々な仕組みとか連携についての市民への周知というものがやっぱり弱いのではないかと。それは周知の仕方もそうでしょうし、なかなか溝が埋まらないというところは、これは別に白井だけに限らず、いろいろな自治体が抱えている課題ではありますけれども。改めて、この周知ということについて、担当ではどのようにお考えになっているか。この場でも共有をさせていただければと思いますので、御発言等いただければと思います。

【子育て支援課長】

子育て世代包括支援センターの周知というところで、この施策評価においても課題とさせていただいているのは、例えばホームページのことであれば、今までは、子育て世代包括支援センターはこういうものですよということだけしかホームページには載っていませんでした。

この課題を受けて、7月前半に子育て世代包括支援センターにおいて、妊娠期から出産期、そして子育て期というふうに、イベントごとにどういう支援が受けられるのかというところをホームページ上で分かるように、今回リニューアルをさせていただいています。

ただ、まだ課題はありまして、ホームページのトップページからまだ分かりにくいとか、そこら辺の改良はまだ必要と思っています。ホームページの具体的なところは、そういうところで改善はしている状況です。

先ほど、委員さんからもあったのですが、職員の中では、実際のところ、この支援に対しての連携というのがもちろんうまくいっているというのは、実感はしています。

ただし、皆さん、市民目線としては、この子育て世代包括支援センターという言葉も難しいというところがありまして、この包括支援センターって何だろうというところから、周知がされていないのではないかとというようなところに行き着いているのかなというのが実感となっています。

対象者である方、例えば、妊娠された方や子育て世帯の方で転入された方が、この包括

支援センターに、母子保健手帳交付など、そういった手続きのときに必ず立ち寄ります。このときに、子育て支援課からも子育て世代包括支援センターについて、冊子を見ながら説明したり、心配事はありませんかなど、必ず一人一人カバーしている状況です。

あとは、チラシ等でも、保育園とか幼稚園、そういったところにQRコード付きのチラシを配ったり、今日持ってきたのですけれども、こういった子育てガイドブック。こちらにも妊娠期、出産期、子育て期というようなところで支援の内容が載っています。そういったところで徐々に工夫はさせていただいているのですけれども、対象者だけでなく、地域の方にも、こういった包括支援の内容というのがどんなものかというのを知っていただく必要があるとは思っておりますので、市民全体に分かるような工夫をこれからもしていきたいと考えています。

【会長】

全くおっしゃるとおりだと思いますけれども、難しいのは、当事者の立場からすると、このことを聞きたいとか、このことを確かめたいというふうな情報の集め方をするのですよね。でも、役所の側からすると、非常に包括的な情報を提供しようとするから、ホームページとか冊子というふうな形での情報発信になると。でも、当事者の側からすれば、まとまった情報というよりも、今この情報が必要だから、これを欲しいのだという部分ですとか、あとは、ちょっと時がたったときに、こんな支援もあったのだということに直面すると、またそれはそれで、非常に、こんな苦労をしなくても済んだのにとかというふうなことも出てきてしまう。

だから、当事者の目線からすると、ピンポイントの情報が欲しいというところがあるので、そういうふうな、役所の側からすれば、一生懸命、情報を市民の側に何とか伝えたいと努力されていると思うのですけれども、当事者の側からすると、なかなかそこの接点というのが作りづらいところもあって。その辺、当事者目線で、どんなふうにその情報をもっと積極的に共有していけるのかなという、この辺が膨らんでくると、すごくいいのかなと思うのですけれども。いかがですか。

【委員】

おっしゃることは、すごくよく分かります。

私もホームページから入ってみようと思ったら、すごく入りづらくて、今は多分リニューアルされてから見ていないかもしれないので、分からないのですけれども、そこに行き着くまでに結構かかったのと。出産、育児はあるのだけれども、子育てというのがなくて、そういう部門が。何か違うところから入っていったら、子育て支援センターに入ったみたいな感じだったような気がして。なかなかホームページから入るのは難しいなと思ってしまいました。

窓口に例えば行ったとして、多分、すぐお話をすれば、それに対応の方が出てきてくださって、やってくださるのでしょうけれども、今、コロナ禍ですし、お母さん方が来る

のかどうか分からないけれども、そういう自分で調べることが割と好きな方が多いんじゃないかなと思うので、確かにホームページとかそういうのは、充実させておいたほうがいいなと思います。おっしゃったように、ピンポイントで行くのはなかなか難しいのですけれども、そういう探し方を確かにする方が多いです。

例えば、ミルクの飲み方が知りたいとか、そういうのも、いきなりばんと来るので、それって多分、話せばすぐできることなのでしょうけれども、電話をかけるのも面倒くさかったり、じゃあ、ホームページに何か見ようかと入るのだけれども、うまくいなくてというような方もいると思うので、なかなかいろいろやるのは難しいと思うのですけれども。

ただ、これからまたいろいろ開拓できる場所であると思うので、ゆっくりやっていたらいいのかなと思います。そのためにいろいろなケアする場所が今はあると思いますから、ファミリーサポートもあるし、それこそママヘルプとかいろいろなのがあるので、皆さん、必要などころにはちゃんと行けるようにしていってほしいなと思いますので、大丈夫だと思います。よろしくお願いします。

【会長】

いかがですか。

【委員】

今、委員がおっしゃったように、会えば早いのですけれども、市民からすれば、こんなことを聞いていいのかなとか。でも、聞けば安心するのだけれどもなというときに、どこに連絡したら分かるかというのが、例えば子育て支援センターに連絡をすれば、そこから関係部署に行くということでもよろしいのですよね。

【子育て支援課長】

はい、そのとおりです。子育て支援課にまずそういった御相談をいただければ、お悩みの内容に応じた関係機関におつなぎするということになります。

【委員】

ということは、それが分かれば、窓口が1個あって、とにかくそこに行けば、そこに連絡をすれば何でも、今度は関係部署が聞きますよということが分かれば、役割としては、第一歩の入り口はいいのかなと思うので、それが分かればいいかなというのは感じました。

結局、こんなことを聞いていいのかなとか、分からないとかというふうになると、結局籠もってしまって、それこそちょっと問題がある御家庭とかになってしまうおそれがあるので、それが回避できれば、すごく大事な公共としてのサービスかなと感じます。

【会長】

多分いろいろな考え方があると思うのですけれども、例えばワンストップでというふうなことを言われるますが、私はちょっと違う考え方を持っていて、窓口を一本化したら、そこにたどり着かないと、情報って得られなくなってしまう。だから、むしろ窓口は無数にいろいろあったほうが、市民からするとよくて。別に役所だけじゃなくたって、日常生

活の中で、例えば買い物するところでも情報が得られるとか、仲間うちでお茶を飲むところでも情報が得られるとかという、いろいろなところから情報にたどり着けるような回路というか、環境というのをつくっていかないと、多分、情報ってなかなか浸透していかないのじゃないかなとも思うのです。

だから、明確な役所としての窓口を一本化していくということがもちろん必要で、とにかくそこにつなげば、必ずたどり着けるということをしかり確保しておくということも必要ですけれども、併せて、環境整備ということでは、いろいろなところから情報が得られるということも、ぜひ検討していただけるといいのかなと思います。

今、こうした様々な各種支援というものが、なかなか市民に情報として伝わっていないというふうなことで、いろいろ議論をしていたところなのですけれども。その辺も含めて、少しこの施策、1-3の「子育てしたくなるまちづくり」ということでコメントを頂ければと思います。

【委員】

今の話なのですけれども、その情報の流し方。大変これはまた難しいのかなと思っております。例えば今のこういう状況で、どういうふうにしたらいいのかと、どこに聞いたらいいのかと。あとは、今のこの子育てしたくなるまちづくりの重点戦略を見ると、担当している課が六つもあるのです。自分たちも市の体制自体がよく分からない中で、どこに聞いたらいいのだろうか。そしたら、ここに聞けば、どこにでもつないでくれるよというのはありがたいのですけれども、専門的な回答をもらいたいとなると、大変時間がかかるなということでもあります。

そして、我々の市はそんなに大きな市でもないし、専門家がどの部署にもいるわけではないので、ある程度、無理のないところで答えなくちゃいけないということと、もう一つは、あんまり中途半端では答えられないということと、その辺の迅速性のところ、あるいは専門性のところを深め合いながらやっていくということが大事なのではないのかなと思っております。だから、完璧な形は求めないで、この程度でできるよという形をよく混ぜ合わせながらという点ですよね。やっていくしかないのかなと思ったりはしております。

【会長】

まだもう少し時間ありますけれども、この戦略の1-3について御発言等があれば、お願いしたいと思います。

改善点ということで、お手元の資料、当日配布資料1と書いた外部評価シート取りまとめの3枚目のところに、委員の皆さんから頂いた改善点を貼り付けていただいております。今、御議論いただいたことが大分この中に反映されておりますので、要するに、周知化を徹底させていく。あるいは、そのやり方をもっと工夫していくということ。それから、もっと当事者とか、あるいは現場で活動されている職員の方等の声も聞きながら、きめ細やかな支援というものを行っていくということは、非常に多くの皆さんが期待しているところ

ろかと思えます。

それから、もう一つ、これも何人かの委員さんも強調されておりますけれども、この白井における子育て支援の特徴と申しますか。その辺をどんなふうに今後うたっていくのかというあたりも、やはり大きな課題になってくるかと思えます。これは、どうしても子育て支援という枠組みからすると、もうそこにある事業をとにかく回していくことで、かなりいっぱいいっぱいになってしまっているところはあって、それは非常によく分かるところなのですけれども。もっと客観的に見ていくと、今はどの自治体も、若い世代にとにかく定住してほしい、もっと移り住んできてほしいということで、地方創生も絡めて相当いろいろなことをやられてはいるのです。

でも、客観的に見ると、大体どこも同じようなことしかやっていなくて。プラス余力があるところは、市民受けのいいサービスを加えてやっているという実情があったりしますけれども。もっと質的なことも含めて、白井における子育ての優位性というか、魅力というか、あるいは、ほかと違うといったようなことを、もしうたっていくことができるならば、その辺をどんなふうに考えていけばいいのかというあたりも大きな課題として問われるところかなと。

例えば、こういう事業については、ほかでは全然やっていないのだということをアピールしていくというのがありますし、もっとベタな部分で、こんないろいろな支援があるのだということをうたっていくということももちろんあり得るところですけれども。その点は、なかなかお答えづらいかもしれませんけれども。

【委員】

先ほど会長が、相談できるところはいろいろな窓口があつていいと言いましたけれども、かつてのまちを見ると、あつたのです。それは、誰がやっていたかといったら、自営業者の人たちなのです。いろいろな商店とか行けば、気軽に話ができて、相談もできて。分からなかったら、あそこへ相談すればいいよとか、いろいろ教えてくれたのです。今も幾つかの店が残っていますけれども、そういう店に行つて分からないことを聞くと、いろいろ教えてくれるのです。

だから、いきなり行政に聞くというのはちょっとハードルが高いというか。前回も言いましたけれども、新しく越してきた人は、気軽に話したり、相談するところが全然ない。でも、昔からやっている店とかに行けば、買い物しながら気軽に聞けたりするのです。

だから、行政も、民生委員とか避難所とかを指定したみたいに、気軽に相談できるようなそういった商店とかを指定したりすると、また違うと思えますけれども。

特に、ニュータウンに行くと、全然自営業者がないから、私は違和感を覚えるのです。どうやってみんな情報を得ているのかなという感じで。そういうところでは。

【会長】

どうぞ。

【委員】

学校事業で、前から聞きたいと思っていたのがあって。地域人材活用事業というので、これは白井市独自だよというようなことが書いてありまして、そのことについてお聞きしたいと思います。例えば、白井市をアピールするまではいかないと思うのですが、ちょっと変わった事業なのかなと思って、お聞きしたいと思います。

【会長】

御回答いただければと思います。

【教育支援課】

教育の中でも、地域人材というのは使っているのです。昨年度の状況を見ると、小学校では、主に芸術関係で演劇の講師を呼んだり、お琴の講師を呼んで、伝統文化とかそういうのを学ぶのに、そういう地域人材を活用したりしています。あと、中学校については、主にキャリア教育で使っています。昨年度はコロナが蔓延して、なかなか学校に呼べない状況もあったのですが、幸い白井市ではICT機器が配備されましたので、リモートでキャリア教育について、いろいろ伺ったりすることができました。

あと、ICTでいうと、先ほど言った芸術の演劇指導。これもリモートで指導している学校がありましたので、そういうことでは、主に中学校ではキャリア教育ということで地域人材を使い、小学校では音楽、歌、芸術、演劇等、そういうので地域人材をしっかりと活用して教育に生かしております。

【会長】

先ほど委員がおっしゃったことにも関わるのですが、そういった学校におけるキャリア支援ということで、いろいろな方を呼んでやっていくというのは、非常にこれはすばらしいことで、大いにやっていくことが大事だと思うのですが、

もう一方で、地域における方々。地域で働いている方とか、地域でいろいろな活動をされている方を学校に呼んで、いろいろな交流をするといったようなことが、どれぐらいなされているのかどうか。

この辺は、先ほど、自営業の方に子育て相談に、ちょっと相談にのってもらうなんていう、かつてあったような。それが同じ形では今は無理かもしれないけれども、先ほどの情報をどんどん浸透させていくということを考えるのであれば、そういう地域におけるつながりと、そういった学校とのつながりというのも、ますます問われてくるころかなと思いますけれども。そういういろいろな専門の方を呼ぶと同時に、地域ぐるみでという視点については、今、白井市としては、どんなふうにお考えなのでしょう。

【教育支援課】

地域ぐるみでということまではいかないかもしれませんが、あくまでも教育、学校関係なのですが、白井市は、梨が非常に有名ですね。小学校3年生になると、地域の産業を学習します。多くの学校でその産業を学習する上で、地域の梨畑に行き、4期ぐ

らいに分かれるのですかね。摘果とかいろいろ作業があると思うのですけれども、それぞれの季節によった作業を学んで、それで、白井市の梨のつくる大変さとか、一つの梨ができるまでの過程とか、そういうのをしっかりと学んで、あとは、それらを使ってプレゼンテーションですね。新聞にしたり、あるいは発表する上でのプレゼンテーション資料を作って、学習の中に取り入れております。

あくまでも学習には目的がありますので、その目的を果たすために、地域の方たちの力を借りて学習を深めていっている。そういうような形で、地域の方に協力していただいております。

【会長】

これは、小学生、中学生、子どもたちがいろいろなことを学ぶ中で、白井ってこういう地域なのだということを知っていくということが、裾野を広げていくということにもなると思いますけれども。

市民活動も、今の話にまさに関わってくる大事なところかと思っておりますけれども、そういう地域の支援の網の目というのをつくっていくというのが今の市民活動の一つのトレンドである中で、そうした学校との連携なんていうのも、今はどんな状況でしょうか。

学校との連携だけに限らず、例えば子育て支援も、切れ目のない支援ということをやっているわけですが、市民活動としても、そういういろいろな地域の方々をこれからはつないでいかなきゃいけないというふうなことが問われる中で、その辺、どんな連携が模索されたりしているのでしょうか。

【市民活動支援課長】

市民活動ということで、基本的には幅は広いと思うのですけれども、まちづくり協議会では、その地域としての連携ということで、防災訓練などを実施しています。先ほど、子育ての話が出ていますけれども、市民活動団体の中には、子育て、あるいは学習支援だとか、そういった形の団体も当然ございまして、そういった方の団体。市内にはまちづくりサポートセンターというのもございますけれども、そういったところを御利用いただいて、あとは、その担当課との連携ですとか、そういったところに今現在は努めているというような状況でございます。

【会長】

あと、学校との関係でいうと、いろいろな学校と、地域と学校との連携ということやうと、学校の先生方の負担が圧倒的に増えてしまうという状況もある中で、だったら、学校の先生がやるのじゃなくて、もっと地域でいろいろなことをやれるはずだという議論も今はどんどん出てきているところですが、そういうところとの連携というのも今後広がっていくと、そういう負担をもう少し軽減させながら、いろいろな連携も出てくるころなのかなという。今、部活動をどんどん地域になんていう流れにはなっていますけれども、いろいろなことも含めて、その辺、大きな課題にはなってくるころかなと思いま

す。

そろそろ時間ではあるのですけれども、ぜひ御発言をいただければと思います。

【委員】

この間、小学校に行って、教頭と校長とちょっとお話ししたのですけれども、このところ、またコロナがぶり返ってきて、思うように動けなくなってきたというようなお話が出てきています。

それと、高等学校で校長先生が今年から新任で入ってきて、地域のことが全然分からないということなので、民生委員の方2人ほどに行ってもらって、ある程度のお話はしてきたところです。

それから、小学校は、いろいろな行事がぼちぼち再開してきているというような感じだけれども、このところ、またコロナが急激に増えてきたので、どうなるのかなど。

先生方は、結構よくやっています。ICTというか、タブレットを使っていろいろな授業がされていますので、結構引っかからないですかと質問したのですけれども、やっぱりたまに引っかかっているみたいだけれども、その専門の業者かが入っているので、その人たちに聞けば解決できているというような話は聞きました。

それと、私のところの支部では、夏祭りと、それから秋の防災訓練というのは毎年やっていたのですけれども、このコロナの関係で今年もできないので、3年ほどは止まってしまいましたけれども、それに対して、事務局を今立ち上げまして、再開したときにすぐ進められるような方法でやっています。先ほども、前回の支部の事務局の人とちょっと話したら、やっぱりそれはつないでいってもらいたいという報告があったので、その辺はやっていきたいと思っています。

それと、個人的な意見ですけれども、うちの団地は6歳以下の子がほとんどいないです。私は情報を得るために、駅前センターで、曜日は分からないのですけれども、小さい子のためにビニールプールを作っていて、そこで遊ばせている子が結構いました。それと、市内の喫茶店でも、座敷のようなところで、小さい子と親御さんが楽しそうに遊んでいるところがあると。そういう仲間にちょっと話を聞いたこともありますし。そういうのをもうちょっと増やしていこうかなという感じで思っています。

それと、周りから発言があったのは、駅前の噴水公園というのですか。あれを復活してもらえないかと。あそこの水場が、結構皆さんの憩いの場になっているので、何とかしてくれないかという意見はございました。

【会長】

いかがでしょうか。

【委員】

地域とのつながりということで少し今話があったわけですけれども、そういう意味では、第二小学校区では、工業団地としても今度のまちづくり協議会にも積極的に関わりをして

おります。これまでも、その地域の子どもたちを工業団地に、せつかく地域として我々も活動しているということで、工場見学会も昨年度も催し、また、子どもたちからも、大変丁寧な感謝の言葉も会社としてもらい、社長としてもらい、大変感激しているようなところがあります。

そういう意味では、地域特性を生かした、九つの小学校区があるのですけれども、そういう交流を今後もしっかり地域地域でつくっていくことが大事じゃないかなと思っているので、これからのまちづくり協議会も、この「子育てしたくなるまちづくり」。そういうものを協議会を進めていく上でも位置づけをはっきりさせていくといいのではないかなと感じております。

【会長】

そろそろ時間なので、総合評価について確認をさせていただきたいと思っておりますけれども。その前に、委員の皆さんから御発言はよろしいでしょうか。

それでは、改めて資料へ戻っていただいて、この一番下のところに、施策の総合評価というのが出ております。各委員、取組状況とか成果とか改善とか分かりやすさというので、それぞれ評価、項目ごとに評価を御記入いただいております。と同時に、最後に総合評価ということで、A、B、C、Dで評価を頂いているところです。

先ほども申し上げましたように、今日はこの総合評価の部分について、この場でお諮りをさせていただきたいと思っておりますけれども。この資料を拝見する限り、5人の委員のうち4人がB評価というふうになっておりますので、全体の評価としてはB評価ということになるかなと思っておりますけれども、委員の皆さん、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。評価としてはB評価というふうにさせていただいて、改善点については、今いろいろ確認させていただいたことをもう一回改めて整理しながら進めていければと思っておりますけれども。

簡単にいうと、様々な取組、非常にいい取組をされていると。これが市民にどういうふうに伝わるかどうかというのが、まず根本的な課題としてあると。ですから、それを既にやられていることに加えて、もっと当事者目線に立ちながらできる部分というものを少しずつ増やしていけるかどうか。ここが大きな課題になってくるのかなと思っております。

それに加えて、地域における様々なその連携という部分ですね。かつては、子育てというのは地域でやるのが当たり前だというふうに言われていたわけで、それが今の状況ですと、なかなか難しい。だけれども、だからこそ地域の中でもっとそういうことができるような場というものを一つでも二つでも増やしていくということが非常に大事で。子育てしている当事者が、そういう網の目の中で、ふとしたときにそうした情報が得られるとか、あるいは、本当にこの部分だけを聞きたいといったときに誰かに聞けるという、そういう環境が日常生活の中でどんどんつくられていくということがやっぱり大事なところかと思っておりますので、その点もぜひ御検討いただければと思っております。

それから、子育ての白井ならではの魅力ですね。今のこともそうですけれども、そういう魅力ということをどういうふうに伝えていけるか。子育て支援課は、どうしても子育て支援の中の事業ということに特化して日々業務に当たられていると思いますけれども、そういう子育てが地域内外のとりわけ若い世代から見たときに、総体としてどんな魅力を感じられるのか。さらに、それが学校教育とか、その後のキャリアという形で考えると、白井も今進めている移住とか定住ですね。そういったことを考えたときに、このまちで子育てするということを考えたときに、これからどんなふうなイメージでもって子育てしていけばいいのかなという、その辺のイメージが膨らんでこなければ、白井で移り住んで子育てしようなんていうふうに多分思わないと思うのです。

ですから、そういう意味では、出産、子育て、それから学校教育、それから、その後の就職という、そのつながりというものを、白井にいとどんなふうに描けるのかという、このあたり。もちろん行政がやるべきことと、民間がもっと率先してやること、いろいろありますけれども、行政として、そういう若い世代がいろいろなイメージを膨らますことができるために、行政として何ができるのかということは、ぜひ一つのつながりとして、これをまた御検討いただけるといいのかなと思います。

それから、学校教育におけるICT教育の充実という部分ですとか、あるいはキャリア支援という部分。これも引き続き充実させていっていただければというところかと思います。

その他、細かな部分もいろいろ御意見を頂戴していますので、この辺、改めて取りまとめた上で、この審議会としての改善点というふうにして、まとめさせていただきたいと思いますので、取りあえず、まずこの施策については以上ということで、確認をさせていただきたいと思います。

○戦略3-2 地域拠点でつながる健康なまちづくり

【会長】

それでは続きまして、戦略3-2「地域拠点でつながる健康なまちづくり」の評価を行いたいと思います。

まず、先ほどと同じように、総合評価の部分を中心に、まず各委員の皆さんから評価、コメントを伺っていききたいと思います。

よろしくお願いします。

【委員】

戦略3-2については、私はどちらかというところと厳しめな評価をさせていただきました、総合評価はCなのですけれども。今回、コロナ禍ということもあったり、あとは、まちづくり協議会もつくられていて、すごく取組としては頑張られているのは重々承知なのですけれども、いま一つ進めていないのが残念かなというのが、今回、総合評価をCにした部分でもあります。

ただ、取組としては、まちづくり協議会で人材を育成したりということであるとか、あとは、ライフステージに応じた健康づくりというの、非常にいい視点ではもちろんあるのだけれども、そこが今回できているかというところ、コロナ禍のこともありますが、地域の方に対して十分な取組内容まで至れていないというところでCの部分と、あとは、改善などや分かりやすさについて、私ではBにさせていただいて、総合評価ではCとさせていただきました。

改善した取組につきましては、Bにさせていただいた理由は、やはり日常生活圏域内の協議会が困難であったということであったりとか、リーフレットを配付する方法で周知したりという取組を鑑みまして、Bにさせていただきました。

今後、ここで遅れている原因としても、コロナ禍の中でイベントができなかったり、直接市民との対話が触れ合うことが困難な状況にあるということはもちろん御承知の中で、いろいろと取り組まれているかと思しますので、ただ、だからこそ必要な支援とか、逆に言えば、人と人がつながることによって、健康やコミュニティというのが図れると思いますので、そこに関して、総合的にCとさせていただきました。

すみません。というか、これからもっとできるのじゃないかというのを鑑みて、Cという意味です。取組が悪いというよりも、今の状況がまた少し変わったり、これから取組を進められれば、もっとよくなるということを鑑みて、Cとさせていただきました。

【会長】

続いて、よろしくお願いします。

【委員】

目標実現に関する取組となっている、これは、取組はそのように動いているのだと思います。ただ、末端というか、うちは自治会が主体なので、自治会まで届いていないかなと

いう感じです。

私のところの支部としては、自治連の役員会の報告は、全部その場で報告しているのですけれども、その役員会の報告もしていないような支部が結構ありまして、自治連の方向性がどこまで行っているのかなというのとは分からないところがあります。

それと、まちづくり協議会ということで、内容はうちの支部だと、お祭り、それから、小学校のリアル防災訓練。これはほとんど行政から普通のPTA、それから民間の人たちと、20ぐらいのグループが重なってやっているので、その辺の協働はうまくいっているのだと思います。ただ、ここ2年間やっていないと、なかなか忘れ去られるような気がするのです、ここをもう少し力を入れていきたいと。

いろいろなところから報告が入ってきますけれども、末端の自治会長クラスのところまで、こういう方向で行きますよというのがなかなか浸透していません。それをもうちょっと細かく市民活動支援課から説明してもらいたいなと思っています。

それと、既存の今、3グループですか。活動していますけれども、その中でも何か不満が出ているような気がしますので、そちらも当たってみて、問題点を引っ張り出して、後発のところを持って行ってほしいなと思っています。

【会長】

お願いいたします。

【委員】

また評価は出していないのですけれども、とにかく言いたいのは、あんまり白井にこだわる必要はないのじゃないかと。今求めているのは、むしろここまで各自治体が、未来がないという自治体が半分以上を占めて、格差が広がって。首都圏だって、東京都が一人勝ちの状態。全部例えばニュータウンだって、東京の一極集中を支えるためにつくられた都市みたいなものなので、そこで自治を考えるのは、今から見たら、難しかったのです。

農業だって、白井にこだわったらやっていけないのです。それほど各個人の行動が広域に分散されているときに、どういうふうな形で自治をやるのかというところが非常に疑問なのです。むしろ望んでいるのは、全国各地、行政サービスは、もう平等にしてほしいというところがみんなの願いじゃないのかと思うのです。

農業でいえば、今後は白井の農業人口も半分になってしまうのじゃないか。国も、農業政策も全然とられていないし、林業にしろ、漁業にしろ、相当ひどい状況になってくるのじゃないかと思うのですけれども。とにかく情報がむしろちゃんと伝わっていないというところがかなりありますけれども、そこら辺をきちっと情報を、市民の声を聞くのは先ほど言ったようにいいことかもしれないけれども、間違った情報がかなりあつたりしますので、そこら辺のところを気をつけてやらないとと思います。

【会長】

では続いて、お願いいたします。

【委員】

まちづくり協議会でいろいろ取り扱っているのは、福祉、子育て、防犯、防災、本当に多岐にわたっていて、地域の課題を解決するのに当たっては、とても重要な位置づけだとは思いますが、まちづくり協議会そのものの運営をすることは、本当に市民ニーズだったのかなというところがそもそもの問題なのです。とても範囲が広すぎると考えてしまうかなというところでは。

ただ、それと、そのまちづくり協議会の情報なども、一定の市民の方だけが知っているような状況になってしまっているのかということもちょっと気にはなりました。といっても、今どんどん小学校単位で、まちづくり協議会の設立が進められていて、どんどん増えてくるということについては、とても高い評価だとは思いますが。そういったことを今走り出している状況の中で、これからどんどんもっと発展させてやっていくというようなことについては、施策の持ち方としては、とてもよく分かります。

改善の中で、人材育成が市民大学校の実施、しろい人材バンクの活用ということなので、すけれども、その活用ももちろんやっている中で、さらにもうちょっと違った活用の仕方というか、人材育成の持ち方をしていかないと、もともと古い事業としてあったものが、趣旨としては、違って始めていたところもあるのかなと思ったので。例えば生きがい対策とか、いろいろと自分自身の知識を広げるとかいうようなことから始まって、それがまちづくりのための人材育成に結びつくのかどうかという限界に対して、もうちょっと別な施策も必要になってくるんじゃないかなと感じます。

そのようなことで、まだまだ知られていない施策の進め方になっているということも、課題としては感じられるというようなところでは。

【会長】

よろしく申し上げます。

【委員】

私も総合評価はCにさせていただいたのですが、まず理由としては、この取組をやって、コロナ禍ということもあるのですけれども、どう変わったかとか、これからどう変わっていくのかというところが実は大切なのですけれども、この取組自体が成果としてよく見えないからということで、Cにさせていただきました。

多分この会議に出ていなかったら、このまちづくり協議会ということも知らない市民だったのではないかというのも正直な感想です。こちらで勉強させていただいて、そういうのがあるのだということで、しっかり見るようになったのですけれども、実際このコロナ禍の中で活動自体ができなかったり、制限されたりした中で、この3区が設立されたということは、皆さんいろいろ努力されて取組が一步前進したということで、それは高く評価できると思いましたが。これから地域単位のまちづくりを進めていく中では重要なポイントだと思いますし、私としては、その地域ごとの生活とか、子育てとか、課題などは、大き

くない白井市の中でも違うので、取組としては大事なのかなと思います。

ただ、やはりほかの委員も言っているように、課題としては、すごくいろいろなことがまだ多いし、成果がどのようにこれから見えてくるのかなとか、そういうことが難しいところではあるのかなと思います。

なので、多分これから市民と、市は全くこれに関与していかないわけではないので、市民と市がどうやって関わっていくのか、あと、ほかの分野との連携はどうやってやっていくのかななどを、このまちづくり協議会ができた後の運営体制とか、そういったことについて、しっかり情報発信をしていっていただきたいと思います。

同時に、この取組が今三つあるのですけれども、これがこの施策の地域の健康なまちづくりというのになっていますので、これがどういうふうに関わって、それぞれがうまく生かしていけるのかということがさらに明確になると、また一つ進むのかなと、取組が進んでいくのかなと思います。

【会長】

それでは、よろしく願いいたします。

【委員】

私もまちづくり協議会には、第二小学校区、そして大山口小学校区で関わっております。そして、この3-2のこの項目については、これを見ている、まちづくり協議会の担う期待度があるものだというふうに位置づけられているのも確認しております。

しかしながら、なぜこれがやっていけなくちゃいけないという前提というものをもう少しはっきりさせておかななくてはいけないのかなと思ってはいます。

一つには、地域づくりにもうお金はかけていけないのだよと。財政も5年たったら何とかなる、5年後も何とかなると書いてあるのは、それは建設関係を大幅に削ることによって何とかなっているのであって、今後高齢化する中で、働く世代をもっともっと呼び込んでおかないと財政的には難しい。そういう意味で、行政がお金をかけていくことができなくなる。そういう前提をはっきり共有していかないといけないのではないかなと。

そういう中で、自治会頼りでやっていくことは、なかなかもう難しいと。自治会の加入率はどこも下がっております。私も自治会長をやっているわけですがけれども、大変高齢化する、85歳の理事を選んでくる地域があったり、そういう中で、これから地域を自治会頼りにはできない。そういう中で、まちづくり協議会というのを今、積極的に機能させていこうということで、三つあるわけですが。

第二小学校区はやっぱり危機感もあるので、今回スクールバスが他市の交通事故をきっかけにあったのですが、これが進めば、スクールバスでどこかに行けば、80名ぐらいの学校がなくなってもいいのかというような少子化の今、なかなか課題が大きいことだなと。ただ、まちづくり協議会が今できたばかりですので、何とかこれで光がともっていけばなということで考えております。

民生委員の方も不参加がありますということの声を聞いております。地区社協の人たち、みんな手を組んで、何とか地域のつながりをして、先ほどのテーマでありましたように、子育て世代がここに来てよかったなという、そんなまちであってほしいなということですので、市と地域と手を組みながら、何とか少し形ができていけばなど。

あと、できることならば、あと残りの6小学校区もモデルケースが既に動き始めているのですが、早い時期に立ち上がっていければなと思っております。

【会長】

今、皆さんの御意見を伺いながら、一つは、この学区のまちづくり協議会というものがまだまだやっぱり理解されていない。それから、地域になかなか浸透していないというところがあって、これは地域でもそういう状況があると思いますし、それに加えれば、役所の中でも、この協議会ってどれくらい共有されているのかという課題も併せてあると思います。この辺は、この審議会でも以前からずっと議論はさせていただいているところではありますけれども、改めて今の状況について、課長さんから少しお話をいただければと思います。

【市民活動支援課長】

今現在は三つ設立されておりますけれども、市民の方への周知というところだと思うのですが。まず準備会の設立から、市がまちづくり協議会の設立に動いた段階から、市民の方たちには、広報紙ですとかホームページに掲載をさせておまして。設立自体は、今年の1月、2月に設立されたわけなのですけれども、そのときにも改めて広報、ホームページに掲載をさせていただいております。

実際に運営が始まっているのは、具体的には4月からになりますけれども、それぞれの協議会におきまして広報紙というものを作成しまして、それぞれの各地域に配布をさせていただいております。

また、夏祭りにつきましても、各まちづくり協議会におきまして計画はされて、チラシ等も作成はしたのですが、このコロナで中止という形で、実際には企画までは行ったのですが、中止ということで、各地、開催はできなかったのですけれども、そういった形で各地域にそれぞれの周知という形では行っているのですが、活動をしながら、実際に夏祭りが行われれば、そういった活動の周知もできますので、実際にはそういった活動をしながら、徐々に周知ができていくのじゃないかなと思います。

あとは、職員への周知というところもあったかと思うのですけれども、職員につきましても、先ほど言いました、まちづくり協議会の広報紙ですとか、そういったものが発行されるたびに、各職員に庁内のシステム等を使いまして、それぞれ掲示させていただいて、職員の方が常に見られるような状態にはさせていただいているところです。

【会長】

この浸透ということを考えるときに、先ほど委員もおっしゃったように、市として一定

の情報発信、それから働きかけはされていると思うのですけれども、例えば班長さんレベルだとか、そういったところまでなかなかこの話が及んでいなくて、それがなかなか情報の伝達に結びついていない。あるいは、何でもかこういふことをやらなきゃいけないのかというイメージが膨らんでいないという、とにかく市が言っているからやらなきゃいけないのだ的なムードというのは、やっぱり現場に行くと非常に色濃いムードとしてあるのかなとも思いますので、この辺は伝達の仕方として、もっと個々の市民にイメージしていただけるような働きかけというのができるかどうかというのは、すごく大事かと思えます。

そのためには、何のためにこれをやるのかという部分ですね。その辺は、どんな伝わり方がされているのでしょうか。

【市民活動支援課長】

まちづくり協議会につきまして、当然、設立について、先ほど委員からも、その協議会のそもそもニーズがあったのかというふうなお話もあったかと思うのですけれども、もちろん設立するときには、スタートについては、市からお話をさせていただいているというところはあると思うのですけれども、当然その設立に至るまでは、まちづくり協議会の必要性、これから高齢化が進んで、自治会ですとか地域の団体というふうなところの課題があって、今後5年、10年先を見据えると、共助の部分ですね。小学校単位の共助の部分で地域を支えていく、課題解決をしていくというふうなところの説明をさせていただいて、そういったところを地域の方が市のお話をきっかけとして、地域でそのニーズというか、盛り上がりといいますか。必要だということで地域の方々が感じていただいて、実際には納得していただいて、つくっていくということが必要だというふうに市も感じております。

【会長】

これは白井だけに限らず、今、全国レベルでこの模索、動きというのは出てきているのです。その横のつながりというのは、例えば農村地域だと、どちらかというと、自治会の延長版で、例えば総務省がやっている小規模多機能自治なんていう、そういう動きが推奨されている。もうちょっと都市部が絡んでくると、こうした小学校区単位でいろいろな自治会もNPOも社協もみんな関わっていくのだと、そういうふうな制度設計というのが一応模索はされています。

ただ、どう機能するかは、それぞれの自治体、地域で考えていく必要があると思いますけれども、市民の方々が自分たちの問題として、こういったことを検討できるかどうかというのがすごく大事で。私はこのテーマに関わっていますので、ちょっと申し上げると、今のままで自治会はもつのですかという問いかけは、どれぐらいなされているのでしょうか。これは市民の方々にとってみると、自治会はあって当たり前。いろいろなことをやってくれていると。災害のときだとか、見守りだとか、お祭りだとか、ごみの問題とか、いろいろなことをやられていると。だけれども、端的に言って、もうこの後10年ぐらいで自治会がもたないというところ、かなり出てくるというところが予測される中で、本当にこのま

まだと自治会はなくなる。なくなっていいという方ももちろんいらっしゃるでしょうけれども、それによってカバーできなくなってくる部分というのがいろいろあると。

というふうな形で、市民の方々が自分たちの問題として、こういったことを議論できるような状況に今なっているのでしょうか。この辺がなかなか悩ましいところがあって、ほかの自治体を見ていると、そういう議論というのがなかなかされていないのです。これからもう少子高齢化で連携が大事だというふうな働きかけはなされるのだけれども、それだと、まあ大変だよな、ぐらいで終わっちゃうという。

だから、もっと自分たちの問題として議論していけるようなこと。例えば、草刈り一つとって、草刈りも全校一斉清掃で、自治会単位でやっていくなんていうのは、もうちょっとしたら不可能な地区っていっぱい出てくると思います。そういったときに、それ、どうするのだという。そういう本当に自分たちがやっていることが関わるようなものがイメージされているのかどうかという、その辺はいかがでしょうか。

【市民活動支援課長】

まちづくり協議会につきましては、今後新たな地区においても、設置、設立を目指していくということでございます。

今言われましたように、その必要性をどの程度説明ができていくのかという部分で、今、委員さんいらっしゃいますけれども、自治連合会全体として、そういうような話というのは現在していませんが、今年度新たな設立に向けて、自治会、それから地区社会福祉協議会だったり、民生委員さんだったり、残りの設立されていない六つの地区にこれから説明をしていくこととしておまして、今現在、その代表者の方とその説明の日程調整をしている段階でございます。

【会長】

委員の皆さんから、御意見いかがでしょうか。

【委員】

まちづくり協議会もそうだと思いますけれども、住民に対して動くのは、多分、自治会が主体だと思うのです。今までもそうだったように。ここ何年かで元気なお年寄りというかが少なくなってきた、それこそ1年交代で自治会長をやっているということで、その引継ぎもうまくできていないと。

私が今度、会長になったので、その改革として、一つは、3年ぐらいはやってもらいたいと。まず補佐的な役割、それから本番の会長さん、その後で顧問みたいな感じで、3年間ほど続けてやれば、引継ぎがうまくなるのじゃないかと考えます。

うちの支部でも1か所だけ、そういう方法をとっているところがございます。ここで高齢化の問題で、自治会と管理組合が一体になるようなところも増えてきているのです。そうすると、ますますなり手がいないという感じで、その辺が何とかしなきゃいけないのじゃないかということで、今度の支部会で私も言います。それから、再来月に自治連の役員

会もあるので、そこで提案していきいたいなど。その辺から改革していかないと、本当に会長が言っているように、自治会というのがなくなっちゃうのじゃないかと危惧していますので、その辺から頑張っていこうと思っています。

【会長】

あと、この問題、もう一つ申し上げると、自治会っていろいろなことをやり過ぎているという声があるのです。だから、今後の自治会の在り方ということを考えるときに、例えばもう福祉とか健康の問題に特化して、それ以外の部分については、もっと違った単位で取組をやっていこうという、そういう模索もいろいろなされていて、この小学校区単位のまちづくり協議会というのは、例えば自治会でできることは自治会でやっていけばいい、やるべきだと。だけれども、自治会だとなかなか難しいことについては、もっとそういう小学校区単位の協議会にどんどん事業を移しちゃって、自治会の負担を軽くして、協議会でもっとできる人ができるときに、いろいろなことをやっていこうという、そういう地域におけるいろいろな活動の棚卸しみたいな、そういった議論になっていくと、もっと違ってくるのじゃないかというところもありますし。

先ほど、例えば子育て支援ということもありましたけれども、子育て支援も地域での連携が絶対必要になってくるというふうになると、そういう部分でまたどんなことができるかというふうな、そういう議論と併せていろいろ検討されているところかと思えますけれども、その辺、自治会の立場から見て、どんな認識をお持ちでしょう。

【委員】

このコロナ禍でいろいろな話合いがすごく遠のいちゃっているのです。それまではPTAとか、小さな子を持っているお母さんたちと話合いをしたことはあるのですが、そういう企画を立てても集まってこない。ほかの地区に声をかけても、やっぱりちらほらという感じなので、その辺をまた戻していかなきゃいけないかなという感じで、私も10年以上やっているんで、そういう声かけは各地区にしていきたいなと思っています。

お祭りというのが一番つながりやすいのですけれども、そこがつながっていないので、次年度には、ぜひやりたいなと思っています。これは住民の皆さんもやりたいと言っているのですが、このコロナで中止になっていて、横のつながりができないという。お祭りをやると、結構、ほかの地区からも電車に乗って集まってくるので、その辺のつながりもできているので、それをできるだけ早く、このコロナが下火になったときに、どういう方法でできるかという検討を始めているところなので、その辺で広げていきたいなと思っています。

【委員】

今、会長が言われた自治会の在り方というのが問われているのだらうと思うのです。先ほど言いましたように、我が自治会は3分の2を割り始めて、なかなか復帰することは、3分の2を超えるというのは難しいだらうとは思っていますが、今取り組んでいることは、

基本的には防災、防犯。これをメインに、防犯、防災をメインに考えております。それを防犯、防災をメインに考える上で、お互いで顔の見える関係づくりをそのためにやっぺいこうというようなことで行事を捉えております。

そういう意味では、我々の自治会はということでもいいのかもしれませんが、自治会は、地域の防災といった、ある程度限定した形をして、また、その中の、ある程度、昔ながら地域づくりをやってきた人たちが、OBといってもいいのでしょうか。そういう人たちに力を借りて、お祭りもしていくと。毎年替わるような役員さんにあまり負担感のないような形でやっぺいいかないと、どんどん役員が回ってくるから、大変だからやめるケースが、自治連の我々の支部でも情報交換をすると、そういう声があります。

そのためには、自治会の役割というのをある程度定義づけていくということ、これを自治会でやることだろうと思ひますけれども、我々の自治会は、今はそういう方向性を打ち出して取り組んでおります。

【会長】

やっぺい自治会としては、ある程度やるべきことというのをいろいろ特化しながら、もちろんそれは地域によって、どこにウエートを置いていくのかという違いはあると思ひますけれども、その辺を考えると同時に、その見直しの中で、こうした協議会づくりというものも改めて位置づけられていくのかなと思ひますけれども。

あと、先ほどの委員の皆さんの話の中に出ていたのが、この小学校区単位の取組と、健康という部分加わったことによって、またそれがどんな意味を持ってきているのかというのを、コメントを頂ければと思ひます。

【健康課長】

健康という言葉が入っておりますが、従来ですと、健康というと病気でないとか、あるいは障害がないことということで、運動をしっかりとしまししょう、あるいは、栄養を十分に取らしまししょうという、そういう病気ということを中心に捉えてきたわけなのですが、最近では、社会参加そのもの、地域とのつながりを持つことそのものが、その人の健康を高める、維持できるということも言われております。

ですので、その地域ぐるみでつながりを持って、そこで健康づくりを広げていくということ自体が、個人の健康のみならず、地域の健康にもつながってくると。そういう考え方を健康課としても十分と意識をして、新たな健康づくりの展開を模索して推進していく必要があると思ひております。

【会長】

委員の皆さん、コメント等ありますでしょうか。委員の皆さんから。

この例えば協議会活動というものが、高齢者の方々が地域にどんどん参加をして、いろいろな活躍できる場を増やしていくということとどういふうに結びついてくるのかというあたりは、どんなイメージをお持ちでしょうか。こういうまたがる質問は、なかなかあ

れかもしれませんがけれども。

【健康課長】

もう一度、御質問を願いできますでしょうか。

【会長】

包括支援等々も含めて、高齢者の方々がどんどん地域に出ていくという、地域参加ということが健康づくりにつながるという先ほどのお話、全くそのとおりですけれども、そういう活躍できる場というのは、市民活動としていろいろできる場というものをやられているところもあるし、それから、生涯教育でいろいろな学び場を提供して、どんどん参加できる場をつくっていくのだという動きもあって、その中に、こういう例えば小学校区単位の協議会活動というものも、恐らく位置づけられているというふうなイメージかと思えますけれども、それぞれでやられている中で、この協議会活動にこの健康づくりというものが具体的にどういう形で結びついてくるのかというあたりはいかがでしょうか。

【健康課長】

協議会の中で、地域課題が何なのかということを経験して決定の上、活動が始まっておりますので、地域地域で様々な課題設定がされているわけなのですが、その中でも健康づくりですとか福祉というところは、どの小学校区の中でも位置づけがされていて、そのための活動をするための分科会、部会が構成されておりますので、そういったところに市も積極的に関わりを持たせていただいて、そこでそれぞれができることを出し合いながら、協議会の活動、健康づくりの活動を高めていくということは、一つの方策として有効であろうと考えております。

【高齢者福祉課長】

高齢者施策という形で考えてきた場合には、やはり高齢者が外に出ていろいろと活動をするという部分については、様々な利点、フレイル予防とかにもなりますし、目的を持って活動をしていただくということが先ほどの健康の部分にも関わってくるのですが、元気を維持できる。例えば介護保険ですとか、そういった部分を使わなくて済むような、本当に元気な状況を続けていただけることが必要なことだとは思っておりますので、まち協等についても、当然その一因にはなると考えております。

【委員】

取組3のところは私は非常に重要だと思っていて、こちらにも記載してあるとおり、フレイル予防の啓発で実際に活動することで高齢者の方が健康を維持して、認知症予防であったりとか、そうすると、先ほど言った自治会とかの参加についても活性化されたりというようなことに全てつながっていくと思っているのですけれども。

その中で、今回コロナ禍でなかなか難しかったというところがあるとは思いますが、でも、だからこそ高齢者の方のフレイル予防というのが、今だからこそ余計しなくてはならないことなのではないかなと私は捉えています。そのことで、とにかく外に出

ると。今は夏で暑いですがけれども、お散歩をすとか、誰かと関わるということが生きて
いる喜びであったり、楽しみだったりということにつながっていく非常に重要なことかな
と思うので、コロナの関係でどういうふうにしたらいいかというのは、職員の皆さんもす
ごく迷われたり、指針とかを参考にしながらいろいろ取り組まれてこられたとは思って
すけれども、今はコロナも大分変化をしてきているところなので、その上でどういうこと
が、どういう活動ができるかとかいうことをしていただくことによって、またさらに、そ
れこそ取組2である助け合いや支え合いということであったりとか、まちづくり協議会が
またさらに発展して、いろいろな方の課題が見えてきたりということにつながってくる
のではないかなと思いましたので、これからのさらなる取組に、すごく私は期待したいなと
考えています。

【会長】

お願いします。

【委員】

今、健康なということここに出ているもので、私もこれ、健康なというのは、なかなか
かくせ者だと言うとおかしいのですけれども、大事なことでありながら、このまちづく
り協議会で健康なというのをどういうふうに捉えたらいいのかなと思ったりします。

そういう中で、今は三つのまちづくり協議会が多分、市もモデルケースとして考えてい
るのだろうと思います。

一つは、ニュータウン地域としての我々の大山口小学校区。そして、もう一つは、もと
もと在来の地元の人たち中心の第二小学校区。そして、戦後次々と開発されてきた地域が
中心の第三小学校区と、特色のある三つの地域でできたわけですので、そういう意味では、
この三つの地域が、よく事業者として、データなくして改善なしという言葉をいつも言い
続けてきた者として、この健康のデータをぜひ平均寿命だとか健康寿命だとか、そういう
データを提示していただいて、どうしてなのだろうか。

例えば、第二小学校区に、公民センターに社協の部屋があって、何だかちっとも人が集
まっていないねと前話したら、「この地域は、おじいちゃん、おばあちゃんたちも畑で、
集まってこなくて仕事があるんだよ、だから、こんなところにはあんまり来ないんだ
よ」という話を聞いて、そうかと思ったりもしました。

そういうことからすると、第二小学校区のおじいちゃん、おばあちゃんは、足腰鍛えて
元気なのか。そういう意味では、これからまた六つつくっていくという意味でも、モデル
ケースのデータをしっかりつかんで、この健康の面で、小さな差異かもしれないけれど
も、そういうものがあれば、それを生かしていくというのは大変有意義な、有効な特色と
して、これからの運動としてやっていく上にプラスになっていくのではないかと思います
ので、ぜひ健康課、あるいはまた、そういうところと連携して、そういうデータも出して
いただいて、取組に加味していったらいいのじゃないかなという、一つの意見として述べ

させていただきました。

【会長】

その辺、改善点として、ぜひこの審議会から提案の中に含めさせていただければと思います。

ほかに御意見等、いかがでしょうか。

【委員】

自治会についてですけれども、私は若いときは東京に何年かいたことがありまして、そのときは自治会に意識が全然なかったのです。何にもしなくても、ごみも自由に出せるし。改めてまた白井に帰ってくると、結構自治会ってきついのだなと思ったりしたのですけれども、やっぱり若い人にとっては、自治会が大変なのです。

うちも古い地域ですけれども、世代が変わってしまうと、がらっと考え方が変わってしまうのです、農家であっても。だから、自治会を抜ける人もどんどん増えていきますし、特に一人暮らしのお年寄り、もう歩くのもおっくうだから、どんどん抜けたりして、それはしょうがないと、みんな認めるのですけれども、どこの地域でも、もう既存の自治会は望めないんじゃないかと思うのです。強制的に何かやらされるというのは、本当に嫌な感じがしますし、むしろ進んだ考え方かもしれないけれども、ボランティア制度みたいなものがむしろすっきりして、進んで地域のために貢献している人の姿を見ると、ちょっと後ろめたいような気がする人も結構いたりして。強制的に何かやらされる人よりは、もっとよく見えるのじゃないかなという感じがして。

自治が駄目でもというか、その活動が駄目でも、全員参加はとても無理だと思うけれども、核になる人が何人か残っていれば、やっぱり機能するところがあったりするから、むしろそういった方面で行くしかないと思うのですけれども。

【会長】

まさにおっしゃるとおりで、どういうふうはこの協議会というものを生かしていくのかというのは、従来の枠組みでやっていけることはいいのですけれども、ただ、例えば自治会と協議会の決定的な違いは何かというと、構成単位なのです。協議会というのはいろいろな団体関わっているし、何なら個人でも参加していけると。でも、自治会というのは世帯単位でやるものだから、やっぱり質というのが大分違ってるところがある。

そういう意味では、もっと自由にいろいろな形で参加していけるという部分と、それから、もちろん高齢者というふうな問題もありますけれども、例えば若い世代がもっとそういう協議会を一つのテコとしながら、もっと地域のためにもっとこういうことをやりたいのだと。こんなことにチャレンジしてみたいのだという、そういうことができるような場とか、裾野を開くのがこの協議会の本来の役割なのかなと思うのですけれども、そういう広がり方がまだまだ足りていないのかなという印象が一つあります。

それが私なりのコメントの一つと、もう一つは、先ほど役所の中でどう共有されている

かということをお願いしましたがけれども、これは、場合によっては部長に聞いたほうがいいのかもしれませんが、やっぱりこの協議会づくりというのは、地域の受け皿というふうな意味合いが、いろいろな意味であると思うのです。

それは、役所がやらせるというのじゃなくて、地域の側が自分たちでいろいろな活動をやっていくときのある種の連携母体のようなものとして位置づけられるものですがけれども、そういう地域の受け皿というものが各課でどれぐらい共有されているのか。今は市民活動支援課で所管してやっていると。それから、健康づくりでは、さっき言ったような健康づくりの場、受け皿として、この協議会を活用すると。その辺は大分慣れてきているのかなというところがありますけれども、これは、それ以外にも、例えば防災関係のものであったりとか、あるいは生涯学習という部分であるとか、先ほど出ている子育てという部分であるとか。いずれにしても、この協議会活動っていろいろな分野の活動の共通項のような、あるいはベースになるような部分ですね。というふうな位置づけになっているのかどうかというのを伺いたいのですけれども。

【市民環境経済部長】

まちづくり協議会と市役所とのつながりということでは、今、担当課では、市民活動支援課が担当ですがけれども、今そこに地域担当職員ということで、まちづくり支援職員という名前で、各小学校区に五、六名が配置をされております。ただ、その配置をされているというのは、まちづくり協議会に配置されておりますので、残りの六つの小学校には今配置はされていないところです。

そういう担当職員だとか、あとは、各担当の課の方からも地域と連携していきたいといったような話も結構出てきます。特に今回は、危機管理課長が出ていますけれども、今年、市の防災訓練を第三小学校区のまちづくり協議会と共催で行うことになっています。今、地域の方と危機管理課で内容をいろいろと検討しながら、いかに地域の方に参加をしていただいて、避難所の運営訓練を含めて、これまでの市だけで行っていた訓練とは違う形でも考えているところです。

ですので、今少しずつではありますけれども、私たち市民活動支援課の職員も職員研修を行いながら、このまちづくり協議会の取組を各課の職員に必要性を認識してもらうところが一番の課題と思っておりますので、そこをまず職員にそういう必要性を認識してもらわない限りは、市民の方々に必要性を認識してほしいといっても、なかなか難しいことだと思いますので、そこをまずやっていきたいというところで考えています。

【会長】

そこはぜひやっていく必要があると思ひまして、どうしてもそういう地域の受け皿を地域でもつくっていかうという動きはそれなりに進んでいますけれども、役所で、これから地域とどんな関係を結んでいけばいいのかという、ここがなかなか膨らまないところがあるので、何かあったときには自治会にという、大体こういう話になっていっちゃうのです

よね。だから、自治会はどんどん負担ばかりが増えていってしまう。だから、もっと地域の連携体と役所がもっと関係をつくっていくというイメージが膨らんでこないとなかなか難しいと思いますし、そうじゃなくても、これからどんどんもっと、さっきの子育てだって、例えばこれからそういう虐待の問題とかを考えていくのであれば、地域との連携、もっと積極的に図っていかないとカバーしていけない。それは、発見から支援ということまで含めて、地域の受け皿と一緒にやっていかないと、なかなか前に進んでいかないと。これがあれば、その受け皿をどうしていくのかという話が必ずなっていくと思うのです。

だから、そういう意味で、それぞれの各分野の中で恐らく必要性というのがあるはずなのですけれども、この辺は、ぜひ内部でも盛り上げていっていただけるといいのかなと思います。

そろそろ時間ではありますけれども、ぜひ委員の皆さんから、ほかにございますでしょうか。

それでは、総合評価ということで、資料を御覧いただければと思いますけれども、今、5人の委員のうち4名がC評価ということになっております。これは、この事業では駄目だということよりは、重要な事業であるだけに、もっと周知化を図り、もっと内部でもいろいろな情報を共有しながら進めていってもらいたいというふうな期待を込めてということだと思いますけれども、一応評価としてはC評価ということで、確認をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

改善点については、今いろいろ御意見頂戴いたしましたけれども、3枚目のところに幾つかの改善点について意見が上がっております。人材育成的な部分であるとか、あるいはそういう地域活動というもの、自治会の在り方ということを含めて、トータルにその地域活動の在り方というものを見直していくと。その中で、この協議会というものがどういう意味を持つのかということをもっと地域ぐるみで話し合っていくような形にしていかないと、どうしても一部の人たちだけがやっているのだとか、行政にやらされているのだとかいうところで止まっちゃっているようなところもありますから、ぜひ本当に自分たちの問題として考えていけるようなさらなる情報発信というものが重要だというふうにも言えるかと思います。

それから、先ほども申し上げましたけれども、地域の受け皿であるとともに、やっぱりいろいろなことにチャレンジしていける場をつくっていくのが、この協議会の大事な役割なのかなと思っています。

ですから、従来の単位、自治会をはじめとした従来の単位ではなかなかやっぱりやりづらかったり、その枠組みに当てはまりたくないという層がいたりというのは、いろいろあるのが実情かと思いますので、そういった従来の枠組みとかいうものにとらわれない形で、もっと俺はこういうことをやってみたいのだとか、もっとこんなことにチャレンジしてみたいのだと。今は仲間で、こことこことこでいいムードが出てきているから、これでチ

チャレンジしてみたいのだと。市も応援してよと。そういういろいろな発想というものが出てくるような場になっていくというのが、この仕組みの非常に大事な側面かと思っておりますので、そんなことも検討していただければいいのかなとも思いました。

地域担当制というの、今は3地区で回っているということですがけれども、この辺で地域とのパイプがもっと太くなってくれば、また違った可能性も出てくるかと思っておりますので、その辺も含めて、ぜひ改善に向けた検討をいただければと思います。

ちょうど時間ですがけれども、委員の皆さんからはよろしいでしょうか。

それでは、C評価ということで、今言ったようなことは、後日改めてまとめさせていただきたいと思っております。

それでは、Aグループ、2施策の評価審議については、以上とさせていただきたいと思っております。皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

■第2部■

(1) 評価の実施について

○戦略1-1 ゆとりある暮らしを感じるまちづくり

【会長】

それでは、Bグループの審議を開始させていただきたいと思っております。

まず、流れですがけれども、お手元にこの外部評価シート取りまとめという、この資料が配付されているかと思っております。これが各委員から提出いただいた評価とコメントの一覧になっております。

この後、委員お一人お一人に、最初は、戦略1-1「ゆとりある暮らしを感じるまちづくり」について、どんな評価をしたのかということをお話しいただいて、これをまず一巡させていただきたいと思っております。その上で全体の評価に関すること。主立った改善点等について少し意見交換をして、あるいは、担当の職員の方々とやり取りを重ねながら、その改善点について確認をするという流れで進めていきたいと思っております。このBグループの終わりが4時50分を予定しておりますので、それまでにこの2施策についての評価をある程度まとめるという形になっております。

ということで、戦略1「ゆとりある暮らしを感じるまちづくり」ということから始めていきたいと思っております。

じゃあ、順番に回っていただいて、その後、オンラインで今日、3名の委員の方々にも御参加いただいておりますので、その後、併せてお一人お一人にコメントをいただければと思います。それでは、よろしく願いいたします。

【委員】

総論的なことを申し上げればいいでしょうか。

【会長】

総論的なこと、あと、ちょっと気になった点、あるいは改善すべき点等々、簡単に盛り込みながら、総論的な形でお話をいただければと思います。

【委員】

先日、7月20日にいろいろと皆さんと一緒に、担当課の皆さんの回答を伺いつつ、感じたこととしては、この外部評価シートの判断基準が、A、Bをつけると期待を上回るというのがあるので、私が白井市はもっとこうなってほしいと期待が大きすぎるのかもしれませんが、その期待をという意味でいえば、白井はまだこんなもんじゃないという思いもあって。このCのところは私なのですけれども、そういう思いが強くなっていました。

特に、この戦略1-1に関しては、どうしても低密度住宅地区に施策が限られすぎているかなという気がいたしまして。もちろんニュータウン地区は、ほぼ開発が一巡している部分はあるのですけれども、富士地区以外にも、農地のスプロール開発的な住宅地がどんどん増えていっている部分が、今、団地地区以上に小学校の児童の多くを占めている現状とかを見ていますと、俯瞰した形で市全体の住宅地を捉えた形の視点がどうしても欲しいなという思いが強くて。その中で期待を上回っているか、AかBかと言われたら、もうちょっと私は期待していますというふうな意味を込めさせていただきました。

緑に包まれたという部分は、豊かな周辺環境資源は、手賀沼もあったり、あと川があったり、親水遊歩道があたりと、様々な自然に恵まれたところではあるのですけれども、先日ほかの委員からもお話出ましたように、緑があるとはいっても、ただの雑木林だと。しかも、歩道にはみ出て、うっそうとして見通しも悪くて、むしろちょっと怖い道もあたりするので。でも、そこは環境課だからというふうな形で縦割りの感じがするので、やっぱり現状ある資源を生かした部分、どうしても今ある公園の整備というところだけに目が行っているような気がしたので、市内の多様な自然資源にもっと寄り添ったというか。地味ではありますが、白井にも様々な歴史とひもづいた、そういう場所もありますので、そういうところにも、ほかの地域の方々が白井に魅力を感じてくれる接点になるのかなと思いました。

あと、若い世代が就職と同時にほかに行っちゃうとか、あとは戻ってきてほしいという思いの施策は、単に白井に接点のある方に対してのアプローチなので、すごく有効だと思うのですけれども。今、人口減少の中で自分の自治体をどれだけ盛り立てられるかと、本当に全国の自治体間のある意味競争になっていることを考えると、白井に縁はないかもしれないけれども、こんないいまちがあったのかと。もうまっしぐらにIターンだという感じの攻めた姿勢がもっと欲しいなという思いをいろいろ込めて、ちょっとC寄りの評価が並んでいますけれども。そんな感じに私は思いました。

【会長】

まず一巡させていただきたいと思いますので、後ほど、またいろいろ重なってくるところあるかと思いますが、また後ほどコメントを頂ければと思います。

【委員】

私は、在来地区の中というところに住んでいるのです。私のところは農家とかそういう地域なので、生まれながら緑がいっぱいあるところなので、市の意向でずっといってこれれば、私はいいかなと思っているのですけれども。そんなところです。

【会長】

では続いてお願いします。

【委員】

私は、全体の取組としては、非常にこれからの白井を高めていく中での取組としては、非常に有効な取組をしているのかと思ひまして、評価的にはBとしたのですけれども、非常に市民としては、有効な取組をしていっているのではないかと感じています。

特に若い世代に対して、定住とか、あとは学業に関しての支援が今後よい取組をしているのかなと感じています。

ただ、市民に対して、その辺の情報がまだそんなに広がっていないのかなというのを感じてBにしたのですけれども、非常によい取組をしているのかとは感じました。

【会長】

よろしくお願いします。

【委員】

まず、評価の仕方の指標があったので、それに基づいてしたのですけれども、例えばBとかCで判断しかねるところも何か所があったのです。例えば、目標実現という中で、施策の成果の達成も見越せるというような書き方がBにあったので、そこを例えばCにしたり。戦略1-1に関しては、BかCのどちらかという考えはあったのですけれども、指標どおりに評価するとCになってしまったのですけれども、まずは、1-1の1というのが市のメイン施策であるのかなとふと感じて、今回見ていきました。

ゆとりある住環境って、低密度住宅という話が一つの例としてあったのですけれども、先ほど委員の方も言われていた、低密度だけじゃなくて、白井市全体で例えば人口を増やす方法について人口2,000人ぐらいもう既に減ってしまい、6万3,000ぐらいなので、この2,000人増やす方策はどういう手当てがあるのですかという質問もあったので、やはりいろいろところで指標を把握していただいて、その中で例えば2,000人増やしていくとか、いろいろな方法を考える必要があるのかと思います。

公園も先ほどお話があった、ある地区だけじゃなくて、白井の全体像としての公園にどんなものがあるとか、いろいろな面で行政から情報の発信をもう少し頑張っていただいて、市民にも分かるような形にしていただければと思います。

また、よく委員会とか審議会で話し合っ、市から市民への見せ方をうまく工夫してやらないと、なかなか伝わらないというような意見があったのですが、そのとおりだと思います。今はSNSとかいろいろところで情報の発信方法はあるので、そこをもう少し工

夫していただいて、お互いに理解し合うような方策も考えていただきたいというのが一つです。

それから、1-1の進め方について、「市民の役割・協働を拡大」というところにチェックが入っているのですけれども、まちづくり協議会は、まだ3地区で成立したばかりなので、将来的な進め方としてはいいのですけれども、現在は、まだ「行政と市民の役割分担・協働」を考えながら進めるというのが現状ではないでしょうか。

また、委員がおっしゃった工業団地のアクセス道路ですけれども、用地買収が残り少ない中、進んでいないのということで、ぜひ早めに整備していただいて活性化を図るのと、また、いろいろな現状の課題を整理して、全体的に市がにぎわいのある魅力あるまちづくりとなるよう、早めに進めていただければありがたいと思います。

【会長】

それでは、Zoom参加されている委員でお願いいたします。

【委員】

今回、1-1の「ゆとりある暮らしを感じるまちづくり」ということなのですけれども、こういうことを考える上で、どうしても隣の市に比べてどうだろうかということなのかなと。こういうのは相対的な、あるいはまた住めば都で、白井愛の強い人間としては、いいまちだなといつも思っておりますので。ただ、アクセス特急が止まらないという以外は、いいまちじゃないかなと思っております。

そういう中で課題なのは、やはりいろいろあるのだろうと。そしてまた、ここの項目で捉えるのは、若い世代ということで少し捉えている。そして、その若い世代って何かというと、こちらに記載があるように、49歳以下ということであるわけで、そういう人たちにとってもやはり地価、あるいはまた手頃な価格で引っ越してこられるという、そのコスパからいってもいい地域で、受入れ体制さえできれば、まだまだこの白井市は、若い世代が引っ越してきたいなというようなまちではないかなと思っております。働く場もそれなりにあります。そして、緑もあり、そして、買い物もそう不便なところでもないよというようなことかなという、そういうふうに思います。

生活指標を見ると、なかなかこれは大変だなというようなことではあるかと思いますが、そういう意味では、自分も総合評価としては、Bというのを付けております。

【会長】

続いてお願いします。

【委員】

私も総合評価ではBをつけさせていただきました。私自身がこの白井に引っ越してきて、すごく住みやすい。さっき言ったように、交通の便もいいし、ちょっと行けば何でもあるという感じがあるので、住んでいる人からしたらいいまちだなと感じる部分はあると思うのですけれども、白井に住んでいない方たちから見たときに、特に何か魅力というものが

ないのかなと感じてしまうのです。

多分、ほかへの発信とかがまだ不十分であるのかなと思ったので、何かその関わっている人たちに向けて分かりやすい説明があったりするといいのかなと思ったのと、どうしてもこの施策評価シートとかを見ていても、ちょっと難しい部分とかがあったりして、私も知識があまりないのもあったので、ちょっと分かりづらい部分が多いのかなというのを感じて、Bにつけさせていただきました。

【会長】

それでは、よろしく願いいたします。

【委員】

私は市民でございませぬので、体験的からしたまち自体の評価というのはなかなか難しいのですけれども。総合評価、私しかAがないので、誰かと分かるかもしれませんが、Aをつけています。他市に比べて、こういう取組自体、全体的な取組自体はしっかりやられていると思いますし、ただ、細かい項目は、AをつけたりBをつけたりしているのですけれども、これは市民じゃないので、今回の評価基準に沿ってあくまでも見ているということなのです。

総合的な評価と、そのそもそも目標を実現するに足る取組となっているかどうか。そこはAをつけているのですが、そもそもそこが出発点と最後のゴールが一致しているというところは、すごくいいかなというふうに、この1-1でも、その次の項目も同じような評価をしているのですけれども。

ただ、先ほど御説明があったように、評価基準がなかなか難しいというか、評価基準で問うているようなことがなかなか示されていない。当然ですよ。算定評価の基準は1次評価、2次評価で反映されていないわけで、当然といえば当然なのですけれども、外部評価基準に対応した説明とか資料が少ないもので、なかなかここにAとかBとかCとかDとか、各項目に沿ってなかなか評価するのが難しいという意味でBをつけたりしています。もしかしたら説明がなかっただけでやっているかもしれないし、そうすると、私の場合は、それはこの評価項目だけのチェックでいうと、BがAになる可能性も十分あると思います。

感想になってしましますが、こういう評価基準をつくるとしたら、外部評価自体が協働のいろいろな関する仕組みというか、協働に関する観点が多い、評価項目が多い。多分四つぐらいは協働に関するものかなと思います。そういう部分が1次評価、2次評価のときにもちゃんと伝わる。職員の皆さんに伝わるということが、もうちょっと次年度以降徹底されると、この外部評価委員会が何を求めているのかが共有されていいのかなと思いました。

全体的には、多分もうちょっと説明を頂ければ、いろいろと協働の取組についても実際はやっているという部分も引き出せたかもしれませんが、今回は意見交換できなかったの

で、その辺は予想で書いていますが、全体的にはしっかりできているかなという印象です。

【会長】

今、一通り、各委員から評価、コメントを頂きました。残りの時間の中で、全体に関すること。今日は、取組状況とか成果、改善、分かりやすさ、個別の項目については、それぞれ詳しくやる時間がございませんので、全体の評価ということで最終的に確認をさせていただきたいと思っておりますけれども。

まず、それを出すに当たって、全体に関することで、もう少し深掘りをしておきたいということがあれば、ぜひ御発言をいただければと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

一つは、若い世代にとってどう魅力ある取組になっているのかどうかということで、いろいろな御意見、この間も含めて頂いたところですが。

一つは、若者といっても、どういう若者を想定しているのかということが、施策に結びつけるとかなり幅があって。先ほども委員もおっしゃったように、定住とかUターンということを考えるのか、あるいはまたIターンのような全然別なところから移り住んでくる、白井の魅力にひかれて移り住んでくるということも含めて考えるのかどうかですね。

その辺の若者たちにとって、ゆとりある暮らしといっても、どういう若者たちなのかによって、そのゆとりの考え方とか、あるいは期待というものが大分違ってくるのかなと思っておりますけれども。資料を拝見している限りは、そのターゲットということが必ずしも明確になっていないということと、そうであるがゆえに、戦略性という部分において、少し欠ける部分があるのではないかとというのが私個人の印象としてあります。

そういう広い意味での若者支援ということを考えたときに、今のこの取組というものをどんなふうに評価していけばいいのか。委員の皆さんで、ぜひ御意見等があればお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。それに応じて、課長さんたちにも少しコメントを頂ければとは思っておりますけれども。先ほどの続きで。

【委員】

おっしゃるとおり、取組1にしても2にしても、やっぱり外から呼び込む。呼び戻すだけじゃなくて、呼び込むというふうな。これも本当にターゲットィングと戦略だと思うのですけれども。これまでは、この計画を策定した3年、5年前とかは、北総線の高運賃の問題もあったので、そういうまちだよということを分かっている人たちに、出ていかないでというの、当時としては、非常に有効な施策だったとは思っておりますけれども、先般、値下げもされたことで、もっと攻められるのじゃないかという思いが強かったというのが私としてはあります。

あと、私もこれを評価のときに迷ったのですけれども、この目標に対して取組が具体的に今出ている、この具体的に出ている取組がその取組どおりにいっているかということ、いっているのじゃないかなと思うのですけれども。でも、この目的に向けて、この取組だけでいいのだろうかという部分で見ってしまった部分もあります。

【会長】

評価の中にも、短期的な視点と中長期的な視点というものがあって、そこがどれぐらいかみ合っているのかということへの疑問等々も出されておりますけれども、今出たターゲットとか戦略性ということも含めて、このゆとりある暮らしというものが今、担当で改めてどんな方向性で進めていかれようとしているのかというのが、この場でも改めて共有をさせていただければと思いますので、コメント等をお願いできればと思います。

【企画政策課長】

市全体的な若者の取組ということで、企画政策課からお答えをさせていただきます。

会長からも前回も御指摘いただきましたが、若者といっても幅広くて、どの若者の層をターゲットにしているかというところでいきますと、現実的に20歳代の市民の転出、市外に転出している超過現象がここ数年続いておりますので、そういう中におきましては、この20歳代の転出防止のための今年度から取り組んでいます事業単位、若者世代の定住促進支援金制度の創設、こちらですとか、この取組1、2、3にありますように、ここは相対的にぼやけてしまうところもあるのですけれども、幅広く現時点では20歳代以外に向けても施策事業を展開して取り組んでいきたいと考えております。

【会長】

人口戦略としては、やっぱり若者。その中味はいろいろあるとしても、若者にやっぱり焦点を合わせていくというイメージで、今、白井は進んでいるという理解でよろしいでしょうか。

【企画政策課長】

はい、そのとおりでございます。

【会長】

ほかに委員の皆さんからいかがでしょうか。お願いします。

【委員】

今、20歳代の転出ということで、これは考えられることとしては、就職、就学。それで、なかなか通学も大変ということで転出するケースだろうと思うのですが。この白井市は、一番転入している層というのはどういうことなのか、その辺もお知らせ願って。というのは、我が自治会の隣接区に今、28世帯の方が転入してきたわけなのですが、その世帯主の方で、50代の方が1人だけです。あとはみんな、ここの我々が議論している若者というのは49歳以下と定義づけているわけですから、ほぼ95%ぐらい若者なのです。

そういうことからすると、やはりそういう20代の人たちが転入してくる理由みたいなのを少し明確にしていかないと、施策が打てないのではないのかなという。今のファミリー層みたいなのは、大変これからも入ってくるのだろうと思うし、そういう人たちを入れていく施策というのは理由が分かるのですけれども、20代の単身者が入ってくるのをどうイメージしているのか。ちょっと分かりにくいので、説明いただければなと思います。

【会長】

この点もコメントを頂ければと思います。

【企画政策課長】

委員に確認なのですけれども、20代の単身の若者が市に入ってくる施策ということによってよろしいでしょうか。

【委員】

はい、そうです。というのは、今、若者が白井市に入ってくることをこの1-1では、魅力ある点でしょうか。ゆとりある暮らしを感じるまちづくりの中で、若い世代が魅力を感じるゆとりある住環境の形成というのを目標実現に向けた取組にありますよね。そして、その若い世代がというのは何かというと、49歳以下と定義づけていますよね。

それで、先ほど20歳代の転出が多い。そういう中で、その20歳代の転出に対して止める、あるいは入ってくるという施策を考える必要があるのではないかと受け止めたのですが、そういうことではないのでしょうか。

【企画政策課長】

若い世代の市への転入の施策事業でございますが、一つは、ここに取組2の構成事業であります近居推進事業といたしまして、これは年代は若者でも幅広いとは思いますが、こういった事業を進めるのと同時に、併せて市の魅力を伝えていければなというところは一つございます。

例えば住環境の魅力ですとか、子育て環境の魅力。あるいは、交通アクセス環境の魅力といった白井が持っている資源、魅力ですね。こちらを市が発信していけば、一ついいのかなと。事業を進めるのと、あと併せて市の魅力の発信になると思うのですけれども、例えば白井市にはシティープロモーションという方針を持っておりまして、その中で取り組む施策が、今言った住環境の魅力ですとか子育て環境の魅力、交通アクセス環境の魅力とあって、それぞれ白井が持っている資源、魅力を内外に発信していくことも一つ取組として大事かなと考えております。

事業と併せての魅力の発信、各種事業と併せて白井の資源を発信していくこと、この重要性を考えております。

【委員】

そういう中で、例えば10代きざみぐらいで転入者と転出者の層みたいな形で、層というのでしょうかね。10歳区切りぐらいの中で、転入、転出のデータというのは常にあるのだろうかと思うのですけれども、その辺のところというのは開示されているのでしょうか。

【企画政策課長】

その辺のデータについては、常にとっているわけではなくて、必要に応じて我々が把握しているところはあるのですけれども。

先ほど参考までに申しますと、20歳代の転出超過という状況が続いているとお答えした

のですけれども、例えば30歳代ですとか、そこに合わせて、30歳代のお子さん、10歳代につきましても、以前は、コロナ禍以前は転出超過、この年代も転出が続いていたのですけれども、最近、令和2年度なのですけれども、令和2年度は転入超過に転じているという状況がございます。

【委員】

そうしますと、現状ではっきりしているのは、20代だけは転出超過が続いていますよということですね。

【企画政策課長】

はい。転入超過につきましては、30代が多い状況でございます。

【会長】

ほかに委員の皆さんからいかがでしょうか。

先ほどから若者にとっての魅力あるということが出ていて、その魅力って何なのかというのは、多分いろいろな要素があるので、一概には言えるものではないとは思いますがけれども。先ほどから出ている話ですと、そういう緑豊かなという部分ですとか、あるいは住みやすさ、暮らしやすさということがあったりですとか、あるいはそういう具体的な近居支援だとかということがいろいろ挙げられてはいますけれども、これももう少し戦略的なことを考えていくのであれば、どういうターゲットに対して、どんな魅力というものを伝えていくのか。

例えば、今のそういう近居支援というものを考えたときに、先ほどのAグループの中では、子育てしたくなるまちづくりという施策で評価を行ったのです。例えば、そういう子育てしたくなるまちって何なんだろうねと、どうもよく分からないというところが一方であって、だけれども、こういう、こちらでも魅力ある暮らしということでもって、いろいろ挙げられてはいるのだけれども、どういうターゲットに対して、どんな魅力を伝えていくのかということをもうちょっと整理して戦略的に組み立てていかないと。緑豊かで、確かに緑豊かなものは非常に大事ではあるけれども、例えばそういう20代とか、若い世代にとっての魅力ある緑ってどういうことなのかというあたりがもっと深掘りされていくと、よりその成果指標に結びつけられるのじゃないかなとも思いますけれども、その辺の魅力というものの捉え方というのは、改めて教えていただけますか。

【企画政策課長】

では、魅力の捉え方なのですけれども、先ほど、住環境の魅力と子育て環境の魅力、交通アクセス環境の魅力ということで、市ではこの三つの魅力についてブランドと捉えて、これを市内外に現在発信しているところなのですけれども。例えば住環境の魅力でいきますと、都心に近いが自然が多くて、利便性に対して地価の割安感があるですとか、あと、地盤が固く災害に強いまち、里山風景が見られて、緑も豊か、ニュータウンとして整備された街並みに桜やケヤキ並木が調和している、こういった住環境の魅力があります。

そして、先ほどの施策にも関連しますが、子育て支援。子育て環境の魅力といたしましては、市内全部ではないのですけれども、歩道が広くて子どもを連れて歩くのに安心、公園が多くて親子で遊ぶ場所に困らない、子どもの成長や子育ては地域ぐるみで支えていく。これは、先ほどのまちづくり協議会にも一部関連するのかなというところがございます。あと、子育て情報の発信が多くて、イベントも充実している。

最後、3点目の交通アクセス環境の魅力でございますが、こちらは東京まで1時間で、通勤や買い物、遊びに便利と。現在はコロナ禍なので、空港のところはなかなか行ったり来たりはないと思うのですけれども、成田空港と羽田空港それぞれに近い、国内外の出張、旅行に便利なところに白井市は位置している。あとは、まちの縦を国道が走っていて、車で気軽に出かけられるまちですとか、これら三つの魅力を白井のブランドとして市内外に発信しております。

【会長】

改めて今、住宅、子育て、交通という部分からの魅力というお話もありましたけれども、そして、コメントの中で、短期的な取組と中長期的な取組がどういうふうに連動しているのかどうかというのが分かりづらいというお話もありましたけれども、この辺のことというのは、どういうふうに考えて、この施策というものを評価していけばいいのか。その辺をコメント頂けますでしょうか。

【委員】

全体的な総合計画の一部かもしれませんが、総合戦略が子育てとか白井のまち・ひと・しごとでどういうふうな組み立てになるか、十分理解しているわけではないのですけれども、千葉ニュータウンというような基本的な資源を生かしながら、それでいて十分に農業的な要素もある。農業をなりわいとしてやっていく人たちと、今度は農住という、農的な環境に住むというところがある。あと、それは、今度は工業を、工業団地も資源として新たにデータセンター。そういうような誘致の施策もあるというような全体のバランスが、千葉ニュータウンというニュータウンをベースとしながらも、農的環境をつぶさないで、できるだけ活用して、新しい工業の要素も入っているというところで、なかなか頑張っているかなという評価になります。

だから、やっぱり求める方向というのは、ニュータウンならではの、もともと地盤が安全だし、東京からの地の利だったり、いろいろな要素のメリットがあるからニュータウンに指定されているわけで、そういうところを、ニュータウンとしての役割は終わっているかもしれませんが、ニュータウンのその後を生かしたものを続けていけば、十分それは、その中に今入っている施策の中に、十分まだ御説明いただいていないと思いますが、多分いろいろなデータが取られていると思うのです。人口階層別の分析もされていると思うのです。大抵、多くのまちでは、それを国からも求められていますから、この短時間の中にそれを全部説明してくださいというのは無理があるかなと。多分それをもっともっと

活用されればいいのじゃないですかね。

今聞いている話の中で、そういうデータの資源とか、いっぱい調べられていることを市民の声をいっぱい聞いてもらっしやると思うのですけれども、そういうところがまだ説明ができていないのかなという。多分そこはちょっともったいなという気がします。

【会長】

データ分析って、先ほど申し上げた戦略ということと含めて、非常に大事な部分になってくるかと思しますので、その辺、もうちょっと詰めて、それが具体的な形に現れてくるようなそういう見せ方というの、非常に大事なのかなと思います。

と同時に今、おっしゃったような、特に中長期的な視点というところからすると、こうした住環境とか交通、子育てということもそうですけれども、もっとバックボーンとして、ニュータウン開発というものがある程度一段落してきたと。ポストニュータウンということが考えられるときに、白井ってどういう方向に向かおうとしているのかという模索がなければ、戦略という話にもつながってこないという。だから、そういう長期的なビジョンというのは、このまちはどういうふうに捉えようとしているのかということが一番大きな話としてあって、その辺が曖昧だと、結局、短期の施策と中長期的な取組というのがなかなかうまく結びついてこないというところもありますので、そういう意味では、ポストニュータウンということを見通したときに何がニーズとしてあるのか。この辺を既に集積されているデータから少しあぶり出していくということも問われると思いますし、先ほどおっしゃったように、それは農住なのか、あるいは工業なのかと、多才な側面を持ったまちというのが、やっぱり今後の大きな売りになっていくのか。この辺は私もよく分からないところがありますけれども、そういったことをいろいろ今後あぶり出していく。客観的なデータとともに、少しあぶり出していく作業ということも必要になっていくのかなと思います。

そろそろこの施策については時間ではあるのですけれども、ぜひ今日の段階でコメントがあれば、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

若者が魅力を感じるというところだったのですけれども、例えばこれというのは、その若者に対して、対象の人たちに対して、どういうことに魅力があるのかということをもっと意見を聞きに行ったほうがいいのかと思うのです。はたから見たときに、若者はこういうのを求めているのでしょうかというので決めつけていってしまうと、結局的外れになってしまうかなと思うので、そこら辺とかは、アンケートじゃないのですけれども、そういうのでやっていくということとかはあったりするのですか。

【企画政策課長】

若者、若い世代に対しましては、毎年度、eモニターアンケートということを行っております。インターネットを通してのアンケート、調査になるのですけれども、こちらで例

えば移住、定住の促進に関する満足度や意見についてですとか、いろいろ。毎年度やっている若者の意見資料というものは、eモニターアンケートというものになるのですが、例えば総合計画、後期基本計画策定においては、タウンミーティングとか、地域に向いている意見を伺ったりとかしております。意見交換会ですとか、タウンミーティング。

あとは、若い世代の方、例えば幼稚園、保育園、小学校の保護者の方に対しても、まちづくりに関する意見を伺ったり、アンケートなのですがけれども、そういうものを行っております。

【委員】

何かそのアンケートをとる基準みたいなのはあったりするのですか。誰でもそのアンケートは答えられる状態にはなっているのですか。

【企画政策課長】

例えば、先ほどインターネットを通してのeモニターアンケートというものにつきましては、市内在住、在勤、在学の方で18歳以上の方であれば、まずはこのeモニター制度に登録をしていただいて、必要に応じてアンケートに御回答いただくというような取組を行っております。

【委員】

多分そのアンケートのことを知らない人たちも、すごい多いのじゃないかなと感じるのです。私も知らなかったですし、多分ほとんど、本当に一部の人しかそういうのを知らないのじゃないかなと思うので、そういうところを大々的にアピールして行って、アンケート、集計をとっていったほうが、よりこのプロジェクトに沿ったビジョンというのが見えてくるのじゃないのかなというの思います。

【会長】

いずれにしても、その若者にとっての魅力、若者が感じる魅力というのは、やっぱり若者から聞いていかなければ、その実情というのは見えてこないところもありますし、先ほどもおっしゃられたように、どうしても施策って、ある種の固定観念でつくられてしまうというところがありますから、若者ってこれを望むだろうという。大体違うパターンというのが多いところもありますので、そういう意味では、本当にどういうこと、どういうニーズがあるのか。どういう期待があるのかということは、これは市内外を含めて、今後いろいろな調査、検討というのはしていただけるといいのかなと思います。

千葉県内を見ても、本気で移住政策をやっているところというのは、相当やっています。いろいろな調査というのを。これをやらないと、若者が何を求めているかということが分からない。中房総とか南房総の自治体なんていうのは、相当調査をやって、こんなところだけでも来てもらいたいというふうな強い思いがあって、来てもらうためには、どういうことにまちとして応えていけばいいのかということを実際に必死に考えてやっているの

です。

だから、そういう意味では、移住層というのを増やしていかないと、本当にまちの担い手というのがいなくなってしまうという危機感が、やっぱりそういうふうな動きに向かわせているところもあると思うのですけれども。白井の場合は、移住とか定住ということの本気度というのはどのくらいあるのかなということも併せて多分問われるところで、非常に立地がいいだけに、そこまで力を入れなくても、何となくの人口というのは維持していけるのかなというふうな部分が、もしかしたら暗黙の前提になっているのかもしれないというところもありますので、この辺、人口政策をどんなふうと考えていくのかということも含めて、ぜひ御検討いただけるといいのかなと思います。

いろいろまた御意見を頂戴したいところでもありますけれども、時間の関係もありますので、今日のところは以上、コメント、改善点を踏まえた上で、今日の段階での一応、全体の評価というものを固めさせていただきたいと思っておりますけれども。今の集計を拝見しますと、C評価が3人、B評価が3人で、A評価がお一人ということになって、なかなか悩ましいところもありますけれども、今の御発言をいろいろ伺っていると、どちらかというとB評価に近いのかなというふうに伺われるところもあるのですけれども、この評価について、もし御意見等があれば、委員の皆さん、お願いしたいと思いますけれども。

【委員】

私、総合はA評価をしているのですけれども、最初申し上げたように、ここは市民の肌感覚とか、市民視点から見てというところがベースですので、特に市民の皆様、市民の方の御意見優先でいいかなと私自身は思います。

【会長】

市民の皆さん、いかがでしょうか。そういう意味では。

【委員】

私も今、会長がおっしゃっていただいたことにすごい共感してしまっていて。やっぱりこのところが、人口減少の中で攻めた姿勢に、本当に他の自治体も、とにかく房総とかでも、定住してくれと言うぐらいのアピール合戦をしていることを考えると、うちも印西市だったり、流山市だったり、シティープロモーションにすごく力を入れているところに負けないぐらいポテンシャルを攻めていったほうがいいと思いますし、現状だと、おっしゃるとおり交通便利だし、ニュータウン地区とかすごく住環境は整備されているし。でも、それって既に今あるものなので、転出抑制ということであれば、白井で育っていれば、その魅力は分かっていますからねということなので、どうしても守りというか、メンテナンス的な感じの施策が中心になってしまっているのです、やはりこれからの人口減少社会の中で白井の人口を極力減らさない。むしろ6万5,000人とか7万人を目指せるような、要するに、より持続可能なまちにするため、活気あるまちにするためには、やっぱり戦略として、より攻めた施策が取組に、さらに次の5年、10年の施策とかも検討される時期に入っ

ていくと思いますので、そこは、ぜひにと思うところでした。

【会長】

ある程度いい流れの中で、各施策事業というのを取り組まれていると思いますけれども、根本的な戦略性であるとか、あるいは長期的な展望の中で、今から何をしていかなければいけないのか。その辺が改めて問われているところでもあるのかなと思います。

今日出すのは暫定的で、まだもうちょっと練る。次回でも練ることは可能ですか。

【事務局】

評価については、最終的には10月の審議会で、報告書について最終的に確定をさせたいと考えているのです。

ただ一方で、改善点ですとかは、審議会までに市で方向性を決めて、来年度に向けての体制を整えるというのもありますので、改善点等は、今日御意見を頂きたいとは考えております。

【会長】

改善点はいろいろ出していただいて、この後、事務局を含めて取りまとめをさせていただきたいと思いますが、評価については一応、今日全体の議論を踏まえて、各委員で、もし今後評価を修正されたいという方は、後ほどまた事務局から説明があると思いますが、一定の修正期間がございますので、そこで改めて御検討いただくということも一応念頭に置いた上で、今日のところは、ニュアンス等も込めてB評価ということで一旦出させていただきたいと思います。

今後、もう少し厳しい評価をされるような方が出てくるようであれば、C評価になり得ることもあるかもしれませんが、一応、今日の段階ではB評価ということで、一旦確認をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

じゃあ、取りあえず今日の段階では、ここで一旦確認をさせていただきたいと思います。それでは、この戦略の1-1については以上となります。

○戦略3-1 都市拠点がにぎわうまちづくり

【会長】

それでは、再開をさせていただきたいと思います。

残りのもう一つです。戦略3-1「都市拠点がにぎわうまちづくり」の評価を行ってまいりたいと思います。

進め方は先ほどと同じように、各委員から、総合評価についてコメントとともに、まず御発言をいただいて、その後、全体で少し議論を深掘りしていくという形で進めていきたいと思います。

それではまた、順次お願いをいたします。

【委員】

私は、先ほどの1-1と違って、3-1の施策の状況に関しましては、おおむねこんなところかなというふうな現状肯定というふうな評価を中心に、結構A評価を中心に並ばせていただきました。

駅前のにぎわいをということだと、市役所と白井駅間の土地が開発されるということで、普通に考えたら、駅前によりにぎわいをといたら、ショッピングモールとかというふうに単純に考えると思っちゃうのです。でも、印西市にイオンモールがあり、新鎌ヶ谷にアクロスモールとかイオンがある中で、市内に駅前商店街もある、複合商業施設もある中で、そうすると、この開発ではデータセンター、企業誘致。これは印西市と同様、白井の地盤が強いということを生かした企業誘致なので、やはりこんなところかなという思いはありました。

その一方で、モニターであるとかアンケートであるとかを実施されながらのキッチンカーの事業であるとかをいろいろ進められているということだったので、おおむねよろしいのではないかなと思いました。

工業団地も、内陸工業団地としては、県内でも結構な規模感の産業インフラというか、ハード面で白井市の経済を支えている部分ですので、ここも大動脈となる道路の整備をとにかくこれをつなげると。ここを推進するというのは、芯の通ったものは感じますので、おおむね肯定的な評価を並べさせていただきます。

【会長】

続いて、お願いいたします。

【委員】

私は、おおむね市のやり方でいいのじゃないかと思います。

【会長】

では続いて、お願いいたします。

【委員】

私も、評価としてはBなのですが、例えば先ほどの話で、データセンターの誘致も成果として現れています。

ただ、先週の20日の話合いでもあったのですが、地区まちづくり協議会というのも別で立ち上がっているということで、そこの連携も今後の課題かなと思ひまして、Bにしています。

特に、地区まちづくり協議会というのは、多分その地区、各地区のいろいろなことに取り組んでいくのだと思うのですが、ややもすると、その地区に限って何かいろいろな要求とかがあると思います。そうすると、今回のこの協議会は白井市全体のことを考えていかなきゃいけないというところがあるので、そこら辺で、どう連携とかいろいろ取っつけていかなきゃいけないのかなということで、その辺の課題もあって、Bにしました。

【会長】

お願いいたします。

【委員】

先ほど、戦略1－1でも述べたのですけれども、評価をしなければいけないので、評価基準の中、BとかCとか判断しづらいというのが結構ありましたので、結果的な評価になってしまうのですけれども。今回事務事業シートで目標値とか成果が述べられていないところが多少あるので、そこを評価の基準に照らし合わせてしまうと、どうしても、いい点がつけられないというようなところも感じました。

それで、都市拠点のにぎわいづくりなのですけれども、西白井もしくは西白井駅の周辺のにぎわいづくりは、私がずっと住んでいる中で、歴史的な時間を見ると、ニュータウンが開発されたときは、結構にぎわいあったのかなと、ふと思うのです。ただ、最近シャッターが開いていないところを見ると、どうしてもイメージ的に活性化していないというような印象を持ってしまうので、より点数がからくなってしまいうというのがありました。その辺のところの満足度を向上するためには、中心拠点とか生活拠点が大事なので、これは、政策的に市自体の考えも少し述べていかないと、なかなか住民だけで個々を取り上げるのも結構厳しいかなと思います。商業施設とかは、インフラが整備されれば、少しにぎわいづくりになるのでしょうけれども、先ほどの1－1もそうで、白井市の魅力のある姿を見せていかないと、なかなか市が発展するのは厳しいのではないかなと思います。

それと、工業団地は、もう皆さん御存じのように長い期間経過していますし、これは都市計画変更もしくは手法としてどこの変更か分かりませんが、その早期実現という目標が立てられているので、少し遅れるだけかなと安易な考えはしているのですけれども、ぜひ早く実現していただきたいと思います。

ただ、道路ができて、国道16号や木下街道からアクセスしていくので、この目の前に住んでいる中で、いつも右折で混んでしまっているのを目にします。折立と冨塚交差点のところは並走交差点なので、右折レーンがほとんどあまり役に立っていない状況もあります。また、国道16号線七次台交差点から道路ができた場合も、千葉方面から来るところの手前に信号がもう一つあるので、やはり右折レーンって整備しないと厳しい点もあるのかなと思います。当然、木下街道と白井交差点のところも右折レーンがあるので、よく状況を見て、右折が渋滞にならないように、早く工業団地に車両が到達できるような方策も、細かい点なのですけれども、考えながら進めていただければありがたいと思います。

評価は、また皆さんの意見を聞きながら、再度、この評価基準を考えていかないと辛めになってしまうという印象を受けました。

【会長】

それでは、よろしく申し上げます。

【委員】

この3－1は、やはりこれ、白井市、行政の役割は大変大きい場面だと思うのです。一

つは、今ここで言われているのは、白井市、白井駅、西白井駅、そして工業団地の地域ということですが、税収を今後考えた上では、大変重要な部分ではないのかなと思っております。

また、魅力ある拠点ができることによって、新しい開発でまた新住民も来るということを考えれば、5年、10年のスパンで計画的に積極的に取り組んでいくということが大事ではないかなと思っております。

住民サービスにもプラスになるし、それがまた魅力にもなっていくわけですね。そんな意味では、この部分は非常に重視して進めていくべきではないかなと思うのですが、なかなかまだまだ見えにくいのかなと。

例えば、工業団地アクセス道路についても、田んぼや畑の中に真っすぐな道を造って、お金をかけて造っているわけですが、これによって隣接のところを開発するところまでセットになっていないので、かけた費用が、便利にはなったねというので終わりそうですよね。やはり両側、30メートル、50メートルぐらいは一緒に開発するということによって、道路ができたために、そこがいろいろな業者が入ってこられるような、そして、それを分譲することによって、道路の造成費用を賄っていくというようなデベロッパーと手を組んでいくような開発行為が、今後もうちょっと必要なのではないかなと考えております。

例えば、今、工業団地の中も、なかなか昔は工業専用地域ということでコンビニさえも建てることができなかった。それで、苦勞して工業団地協議会として建物を建てて、今いるわけですが、改正されて、工業専用地域の中に商業施設が建てられるようになりましたよね。そういう意味からすると、まだまだ市のリーダーシップで進めていくことができるのではないかなと思います。未整備地域もまだまだあるし、これからは、物流環境も大分増えてきておりますが、そういったところでも、償却資産税並びに固定資産税、そして、少ないかもしれないけれども法人税。そこで職場ができていくという意味で、積極的な取組をしていって、まだまだいいのではないかなと思っておりますので、この都市拠点がにぎわうまちづくりは、大いに5年、10年のスパンで進めていくべきではないかなと、かねがね思っております。

【会長】

では続いてお願いいたします。

【委員】

この3-1では、都市拠点がにぎわうまちづくりとあって、このにぎわいのところでは、商業施設などの進出を誘導するとともにとあるのですが、隣の市などではやっぱり大きな商業施設があったりするので、それに比べると、白井はかすんでしまうなという部分があるのですが、それでも小さいところから攻めていっている感はあるので、そこはすごくいいなとは思っています。

ただ、どうしても大きな商業施設というのがなくて、そこら辺に関しても魅力が欠けてしまうのかなと思って、今回の評価を私はBにしてあります。

【会長】

それでは、お願いします。

【委員】

私は先ほど、市民委員ではないのですがという話をしたのですがけれども、私、都市計画審議会では都市計画のことは少し理解しているつもりでいますので、ちょっと踏み込んだ話ができると思います。

今日の総合評価は、私はBなのですがけれども、Bが今回の3-1、さっきもそうなのですが、施策全体の評価なのか、その前の9個を踏まえた総合評価なのかと、ちょっと混乱してしまっていて。本来、こういう書き方をすると、9個の個別評価を踏まえた総合評価というふうに読むと思ってはいるのですがけれども、いろいろ各委員の御意見を伺うと、施策全体の評価なのです。

そうすると、施策全体とこの9個の個別評価の関係はどうなるかという、そこがややこしくなるのですが。そういう意味では、先ほどの施策については、私、9個を踏まえた評価ということなのです。ここは少し都市計画審議会のことも踏まえると、全体の評価もできそうなのですが。

全体、まずは9個の評価項目でいうと、先ほどの項目よりちょっと厳しめに時々Cを入れているのですが。特に、成果の中でいろいろな分析をしているのですが、その分析結果を踏まえて、分析の原因がある程度明確になって、担当部署では明確になっていると私は都計審の中では思っていたのですがけれども、そこがなかなかすっぱりと行ってくださらないところで、何でそれが分析できてないのなんていうのでCをつけたりしているのですがけれども。いろいろ調べられていて、よくはやっているのですが、市民に分かりやすくそれが伝わる、分析がきちっとできている、できていることをちゃんと説明できるという、その辺も大事なのかなと思って、そこは厳しめに評価してあります。

全体にしては、Bというところなのですがけれども。あとは、この個別の評価は別にして、施策全体の評価でいうと、私、他の都計審とかもいろいろ絡んでいますが、大変よくやっているのかなと思います。地区まちづくりセンター、まちづくり協議会の話も出ていますが、なかなか言い出すのは簡単なのですが、それにサウンディングをかけて、いろいろな業者さんにサウンディングをかけて地区内をまとめて、しかも民間にいろいろ提案をさせて、その中でいろいろ地区計画に、いろいろな制度に落とし込んでいくという作業をやるのですがけれども、それは白井の都市計画行政かもしれませんが、非常に積極的にされているなと。

皆さん、市民の方は当たり前に見えるかもしれませんが、なかなかそれって大変なのです。民間の提案をどうやって呼び込むか。お金も資源も自由にあれば、流山みたいに国家

プロジェクトがあって、第二常磐線のために、おたかの森ができてみたいなのと、まずもって違うわけです。南房総とも、また移住政策も違ってくる。そうすると、北総鉄道なり北千葉鉄道なり、自分のまちだけじゃなくて、成田と東京を結ぶ中間にあって、先ほどの項目に施策にも関係するかもしれないけれども、もしかしたら通勤で、仕事の場合は少ないかもしれないけれども、通勤で居住してもらえるとという戦略もあるかもしれないですよ。成田空港の機能拡張みたいところで、多くの人材を必要としているわけですから、そういう広域をにらんだ中で何ができているかという。今回の観点は入っていませんが、その辺をにらみながら都市計画行政はできているかなんていうふうに思います。

データセンターも、船橋の大容量の変電所が近くにあるという、そういうそこら辺の立地も的確に、自分のまちだけじゃなくて、白井のまちの強みを近隣を眺めながら戦略を立てていく。その辺もできて、なかなかそれを市民の皆さんに上手に伝えるというところができにくい部分なのですけれども、そこは逆に、いろいろなデータ解析も含めて、分かりやすい言葉で市民の皆さんに都市計画行政を伝える義務があるかなんていうふうに思います。

そういうことを含めて、個別というか、3-1の施策全体は、本音を言うとAをつけたいところなのですが、9個の評価項目を踏まえた総合評価となると、私はちょっと厳しめです。厳しめといってもBですが、Bをつける。こんな感じになっています。

【会長】

都市計画の視点から、いろいろまたコメントを頂ければと思いますけれども。取りあえず今、一通り委員から評価、コメントを頂きましたので、さらに改善点ということも含めて御意見等を頂戴できればと思います。

今御覧いただいている資料の3枚目に、提出いただいた評価の中から改善点について抜き出して一覧にさせていただいています。この辺も踏まえながら、この施策についてのここはこうしたほうがいいのかというふうな意見出していただいて、これら等を含めて、最終的に改善点をこの審議会としてまとめられればと思いますけれども。今日のところは、いろいろ御指摘をいただければと思いますので、順次、御発言をいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

先ほどから委員の中で出てきている意見として、とにかくにぎわいをつくっていくということである以上、やっぱりまちとしての、あるいはその地域としての魅力というものを積極的に発信していかなければいけない。それをつくっていかなきゃいけないのだということが一方では言われていますけれども、ソフト面でそういうことが一方で問われている。

ただ、ハード面を考えていくと、先ほどのお話の中にもありましたけれども、地区計画というのをどういうふうにつくっていかなきゃいけないのか。そこでいろいろなサウンディングをかけながら、どういうことが可能なのか。この辺はそれぞれの権利上の問題であったりとか、あるいは業者の意向の問題とかもいろいろなことが関わってくるので、何を

もってまちの魅力として集積していけるかどうかということの難しさも、他方においてはあるという。

その中で、このあたりをどう考えていけばいいのかというところではあるのですが、さらに深掘りをお願いしたいのですが、今申し上げたような、そういうまちの魅力を積極的に、もっと駅前なり何なりで集積してやっていくべきだ、そのためには例えばソフト面を考えていけば、白井であれば、農業資源というものをもっと生かしていくべきだとか、いろいろな意見というものがこれまでも出てきてはいるところです。ただ、それをどんなふうにつないで、ハード面を含めて整備していけばいいのかということで、なかなか見えづらいところもありますので、その辺どんなふうに、今後そのあたりというものを考えて動きをつくっていけばいいのかという、その辺を御教授いただけますでしょうか。

【委員】

そういう打ち出の小づちがすぐできるわけではないですが、例えば都市計画行政、拠点づくりとか、にぎわいづくりというのは分かりやすいものですから。しかも、そこには一定の投資も必要で、開発も必要で、じゃあ、開発がすぐにできるかという、開発をやるためには、ちゃんと企業がそれに飛びつくための根拠がなきゃいけないし、そのサウンディングが必要だし、制度も必要だし。じゃあ、他市に対して勝ち目があるかというようなところの分析も必要なのです。

そういうところって割と専門性が高くなるのですが、高くなるで済ませないで、それをできるだけ住民の方に分かるように、先ほどと話が重なりますが、都市計画行政の人たちがリーダーシップをとって企画を巻き込み、先ほどの1-1の関連するところとか、どこかの項目の指標がありましたよね。直接関係する部署だけではなくて、それ以外のところも付加的にという、そういう部分もうまく組み合わせていくという。都市計画行政って分かりやすいもの、しかも、それは大規模に進む。しかも、広域、市町村を越えた枠の中で進むという、非常にそういう分野だからこそ、市民には分かりやすく進めないと合意が得られないというところなのかなと思います。

お答えになっているかどうか分かりませんが、なかなかそうしないと、現実性、現実的な、あれが欲しい、これが欲しいというのは誰でも言えることです。この立地の中のこの人口の伸び、想定される人口の伸びの中で、それは相対的な動きの中で何ができるかというところを議論しなきゃいけないわけで。そこの部分も、そこはあれが欲しい、これが嫌、それはできませんと。いやいや、努力しますとかじゃなくて、ありのままの状況をしっかり共有するというのが重要かなと。

そういう意味で、ここの項目を市民に分かりやすく、データをしっかり分析した上で示す。ほかの直接関係ないかもしれないけれども、連携をしていく。そこら辺、自治会との連携もそうですよね。そういうようなところが大事じゃないかなと。遠回りのようだけれ

ども、それをやるしかないのかなと思います。

【会長】

今、御指摘いただいたあたりで、少し分野をまたいだ横の連携であるとか、その巻き込み。なかなか難しいところがあるということは、もちろん前提ではありますけれども、その辺の巻き込みというものを委員の皆さんからすると、もっといろいろな分野の声を拾い上げていながら、少しずつ合意形成をしていっていただきたいという思いはあるとは思いますが。その辺、改めて担当として、どのように御覧になっているか。コメント程度で構いませんけれども、お願いできればと思います。

【都市計画課長】

今、委員から、取り組んでいることの市民に対して分かりやすく発信していったほうがいいのではないかなというように、御意見頂いたのかなと思いました。

そういった場合、都市計画課だけで発信するというのも確かなかなか難しいので、いろいろな課で横断的に取り組んで、今やっているようなことを発信していったりとかしていかなくちゃいけないのかなと考えました。

【会長】

立場によって、例えば駅前とか都市拠点ということを考えてときに、市民の皆さんも多分いろいろな思いがあって、ここはもっとこういうものをつくってほしいとか、こういう場であってほしいというのが、既にいろいろな御意見等々も出てきているところかとは思いますが、担当課として今後の目指すべき方向性というのは、どういうあたりをお考えになっているのでしょうか。

というのは、なかなかそういう方向性が見えてこないもので、にぎわいといっても、何をもってのにぎわいなのかというのが、はっきり言ってよく分からないのです。ですから、そういう意味では、こういうところに重きを置いたにぎわいというものを今後創出していきたいとか。もちろんそれはできること、できないことがあるにはしても、担当として、どんなふうなお考えを持っているのかというあたりは、お聞かせいただけますでしょうか。

【企画政策課長】

まず、何をもってにぎわいかというところですが、こちらにつきましては、いわゆる人が集うとか、活気があるまち。このあたりを市としては求める成果として捉えております。

【会長】

お願いします。

【委員】

市民の呼びかけができていないとかと申し上げているのじゃなくて、非常に頑張ってやっているということを分かりやすく市民の皆さんにお伝えするのがいいのかなというふうに。やっていないということを指摘しているわけじゃなくて、十分頑張っておられるとい

うのを専門性が高いから、分かりやすくいきましょうという話です。

あと、今のにぎわいの話も、今取り組んでいる社会実験いろいろやっているわけです。にぎわいの考え方自体がこれまでと全然違うわけです。限られた予算、そこに住んでいる人たち。その場所性で、にぎわいって違うわけ。だから、社会実験やって、そのにぎわいの在り方を求めているわけですね。

そういうことを抽象論で、にぎわいの一般論みたいなことをおっしゃいましたが、そうじゃなくて、社会実験を何のためにやっているかというのを堂々と説明等をしてほしいのです。そこは市民に分かりやすく、今やっていることをありのままにお話しされれば、理解いただけるかなと思います。

【会長】

この辺、ソフト論だといろいろなものが出てきがちなところはありますけれども、都市計画という視点からしたときに、その辺、今はどんなふうに動いているのかということの説明いただけますでしょうか。

【都市計画課長】

市役所周辺ということで、中心都市拠点というふうに市の周辺を位置づけておりますので、今年度は中心都市拠点の課題ですとか、可能性とか、そういったものを委託をかけながら、将来像みたいなイメージパースみたいなものをつくるようなことをやっていこうと考えておりますので、それをやっていく際には、当然、都市計画課だけではなくて、いろいろな課を横断的に入って、協議をしながら今後の中心都市拠点のイメージ的なものをつくっていきたいなと考えているところです。

【産業振興課長】

社会実験のお話を委員からされていたと思うのですが、社会、トライアルサウンディングの話だと思うのですが、担当は産業振興課なので、産業振興課で答えさせてもらいます。

前回も答えたのですが、3月にやったトライアルサウンディングは、駅周辺活性化事業の一環として、駅周辺を活性化するための機能はどういうものが必要か。そういう目的でやった社会実験になります。

ですので、取りあえず3月にやったのは、飲食店、キッチンカーなのですが、それ以外にも何回かやっていて、駅周辺のビジョン、そちらをつくっていくための社会実験となっています。

産業振興課で駅周辺活性化事業と、あと企業誘致。中心都市拠点でも企業誘致を進めている箇所が何か所かありますので、それとあと、工専地域の活性化事業で、3本重点戦略事業を持っているのですが、産業振興課が目指すにぎわいといいますと、やはり駅近辺の人口ですね、定住人口。駅周辺活性化事業で定住人口を増やしていくのがまず1点と。中心都市拠点に企業誘致をすることで、市内の雇用も増やしますけれども、

それだけじゃ間に合いませんので、市外からの雇用。要は通勤の人口です。そういうものを増やすということは、北総線の乗降客数も増える。

ただ働く場所と住む場所だけだと、それはあまりにぎわい、寂しいにぎわいになってしまいますので。駅周辺活性化で駅再編をして、既存の商店街をリニューアルさせることと、あと、駅周辺ににぎわうような、そういう施設を誘致することで、駅全体をリニューアルして交流人口を増やすこと。その3点で、産業振興課としてのにぎわいをかなえていければなということで今は進めています。

事業としては長期で進めていく事業なので、1年でこう結果が出ましたというのはなかなか言えないところがありますので、もう少し長期の視点で見てもらえればと考えているところです。

【会長】

その辺、なかなか頂いている資料ベースだけからだと分からないところもありますので、その辺どういう調査結果といいますか、状況があるのかということは、少しいろいろ数値化していただきながら、可能性を模索するということが一つ大事なことですし、今御指摘していただいたような、ある種の住む環境、消費の環境、働く環境、通勤できる環境等々の結びつきというのは、非常にイメージは湧くところですけども、その辺がどんなふうにもこれからも長期的に進められていこうとしているのかと。その中でそういう社会実験をはじめ、ここの動きが位置づけられているのだというふうな見せ方は、ぜひしていただきたいなと思いますけれども。

1点だけ伺いたいのは、今おっしゃったようなことは非常に分かるのですが、同じ沿線の中の比較優位性というのは、どんなところにあるのでしょうか。白井の場合には。

【産業振興課長】

比較優位性、産業振興課が回答していいのかわかりませんがちょっと分からないのですけれども。

まず、東京から近い。要は隣の市と比べても、隣の市はもう世界的なブランドになっていますけれども、そこよりも東京には近いというのが、まず1点の優位性かなと思うのですけれども。

それと、拠点としての優位性ですよね。市全体の優位性という形ですかね。

【会長】

都市拠点としての優位性です。要するに、特徴ということですよ。今おっしゃられたようなことというのは、いろいろな他の自治体の都市拠点整備の中でも、いろいろ検討されているところかと思えますけれども、白井としての特徴というのは、その中にどんなふうに見いだせるのでしょうか。

【産業振興課長】

なかなか東京圏から近いというの以外は、ちょっと。あと、拠点としては、隣の市と比較してしまうのはあれなのですけれども、非常にコンパクトなところがあるというのはあ

ります。

ですので、行政で見れば、広い地域をピースを埋めていくということではないので、ある程度コンパクトなところに、空いているところにピースを埋めれば、ある程度の拠点としては完成できるというところがあるので、回答になっているかどうか分からないですけども、そういうのも一つのメリットになってくるのではないかなと考えています。

あと、先ほど委員からおっしゃってもらったとおり、企業誘致の観点からいいますと、隣に変電所があるというのも、そもそもあの隣の市の立地しているデータセンターも、そこの変電所から電気を持っていっていますので、距離的には白井が近いというのがありますので、その辺も企業誘致の観点からするとメリットになるのじゃないかなと。

ちなみに、今現在、地区まちづくり協議会の支援、地区まちづくり協議会ってまちづくり条例に基づいて設立されているのですけれども、協議会が設立されると市は支援しなきゃいけないということになります。今、4月に産業振興課内に企業誘致推進室ができました。企業誘致推進室が地区まちづくり協議会の支援は一手に担っているところです。

質問からちょっと離れちゃいますけれども、連携の話も出ていたのですけれども、当然、産業振興課の企業誘致推進室だけではできない話で。というのも、企業誘致を進めようとしているところは全て市街化調整区域ですので、インフラは非常に弱い。当然、インフラ部分は、都市計画課さんとか道路課さんとか、その辺と連携していかなければなりませんし。その開発を目指す、企業誘致を目指している計画の近隣ですか。その辺、住宅が結構張りついているところもありますので、その近隣とも、ある程度話合いは進めていかないと、円満な企業誘致ができていきませんので、その辺を産業振興課だけじゃなくて、市内で連携を取って、今現在進めているところです。

優位性の回答以外にも行ってしまいましたけれども、今のところはそんなところです。

【会長】

我々が評価する資料の中で、いろいろお話しいただいたようなことというのは十分に反映されていないように思われますので、その辺もうちょっと見えるような形での進捗状況であるとか、課題出しということをしていただけるといいのかなというのは、評価をする側からすると気になる点ではありますので、その点は申し上げておきたいと思いますが。

お願いします。

【委員】

ちょっと補足して言いますが、今のような御説明でいいと思うのですけれども、例えば都市計画でいうと、農住ゾーンと緑農ゾーンというような農的エリアを二つに分けているのですね。コンパクトなまちの中で、こういうゾーニングを緑農という部分と農住というような住み方、産業、なりわいとしての農業というようなニュアンス。しかも、農住ゾーンって、従来だと、特に市街化区域の縁辺部だと荒れてしまうのだけれども、そこをニュータウンのときからですが、ラーバンというような農と住の居心地よい共存みたいなどこ

ろをずっとうたってきたいて、そこってやっぱり白井の資源かなど。特に今後、SDGsということになると大きな資源で、しかもそういうデータセンターとか、新しい産業も入りつつあるという。そのこのそういうよさもあるのかなと思います。

【会長】

いろいろコメント、改善、期待したいところ等々、御発言をいただきましたので、この3枚目の資料に加えて、最終的にまとめをさせていただきたいと思います。

そのことを踏まえた上で、取りあえず今日の段階での総合評価ということを確認させていただきたいと思いますが、各委員からの評価を踏まえたと、B評価が5名、C評価が2名ということで、一応全体としては、B評価ということが妥当かなというところではあるのですが、委員の皆さんはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

この後、まだもう少し委員単位での評価を変更する期間というのがありますので、今日の議論を踏まえた上で、もし個別の項目も含めて変更される方がいれば、所定の期日までに変更等をお願いできればと思います。

今日出された意見等については、また次回の審議会までに、市としてどういう方針で対応するのかということについてのまとめをしていただいて、それをまた次につないでいくということになりますので、今日頂いた意見については、そういった形で今後まとめられていくということで確認をお願いしたいと思います。

一応、今日予定されていたことについては以上となりますけれども、委員の皆さんから何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、議題は以上となりますが、二つ目のその他ということで、事務局から何かあればお願いをいたします。

【事務局】

先ほど会長からもありましたとおり、本日の審議を踏まえて、個人の評価を変えられる場合、8月19日までに外部評価シートの最終のものを御提出いただければと思います。

ただ、今回を踏まえても、特にもう修正ないということであれば、その旨を後日で結構ですので、事務局まで御連絡いただければと思います。

また、次回の日程ですが、10月14日午前10時からの予定です。先ほど申したとおり、外部評価、報告書について、案について御議論いただくこと。また、来年度の今回の外部評価を踏まえて、来年度の外部評価について、こちらで案を示しまして、御意見をいただければと考えております。

【会長】

次回の審議会は10月14日、金曜日の午前10時からということになっておりますので、御確認をお願いいたします。

そのときに外部評価の報告書ということで、最終的な取りまとめを行いますので、また御協力をよろしくをお願いいたします。

ということで、今日予定されていた議題は以上となります。これをもって第3回の白井市総合計画審議会を閉じさせていただきたいと思います。

お疲れさまでした。